

ワイヤレススタジオ

ユーザーガイド Version 4.1x

DWR-R01D/R02DN

PB-01

お買い上げいただきありがとうございます。

本ソフトウェアのご使用にあたっては、DWR-R01D/R02DN、PB-01 に付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

DWX
DIGITAL WIRELESS

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび取扱説明書の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

© 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015 Sony Corporation

このソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

このソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。

このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

目次

本書の使いかた	4
表記上の決まり	4
本文中の画面について	4
特長	4
ソフトウェアと運用機器の準備	5
ソフトウェアの動作条件	5
ソフトウェアのインストール	6
ネットワークの設定を行う	7
ネットワークに接続する	8
各部の名称と働き	9
メニュー	11
基本的な使いかた	12
運用機器の検出とモニタリング	13
正常にモニタリングできないときは	14
チャンネルプランを選択する	14
ペアリングを行う	16
運用機器のコントロールを行う	17
運用中の電波環境を記録する	19
設定ファイルを活用する	19
Device List ウィンドウ	22
メインウィンドウ	26
Status Viewer とメーターアイコン	26
サブウィンドウ	28
Message Log タブ	28
Property List タブ	29
RF Chart Grapher タブ	31
RF Chart Analyzer タブ	33
Spectrum Analyzer タブ	33
設定ウィンドウ	35
Property ウィンドウ	35
Channel Plan Adviser ウィンドウ	40
Omit IP address list ウィンドウ	45
Setting lock ウィンドウ	46
Receiver CH Label setting ウィンドウ	46
GP/CH display setting ウィンドウ	47
Status Viewer setting ウィンドウ	48
Other setting ウィンドウ	48
Startup setting ウィンドウ	49
Region setting ウィンドウ	49
チャンネル呼称の表示について	50

本書の使いかた

本書はデジタルワイヤレスレシーバー DWR-R01D および DWR-R02DN（以降、この2つをまとめて「デジタルワイヤレスレシーバー」と表記します）に付属のソフトウェア「ワイヤレススタジオ」の使いかたを説明しています。本書の内容をよく理解するために、「デジタルワイヤレスレシーバー DWR-R01D 取扱説明書」または「デジタルワイヤレスレシーバー DWR-R02DN 取扱説明書」もあわせてお読みください。

表記上の決まり

- メニューまたはボタンをクリックし、その下に表示されるサブメニューを選択する操作を、「[メニュー（ボタン）名] > [サブメニュー名] を選択する」と表現します。
例：File メニュー > Open を選択する。
- キーボードのあるキーを押したまま別のキーを押すことを示すときは、キーの名前を「+」記号でつなぎます。
例：Ctrl + P キーを押す。

本文中の画面について

本文中の画面は、お使いの OS（オペレーティングシステム）により異なる場合があります。

特長

ワイヤレススタジオは、ネットワークを通じてデジタルワイヤレスシステムのモニタリング、コントロールを行うことができるソフトウェアです。最大で6台の PC から同時にデジタルワイヤレスシステムに接続することができます。

ワイヤレススタジオには、以下のような特長があります。

運用機器のモニタリング機能

デジタルワイヤレスレシーバー、リモートコントロールユニット RMU-01、およびトランスミッターの運用状況をモニタリングできる Status Viewer を備えています。Status Viewer では、デジタルワイヤレスレシーバーの初期画面と同等の情報を一覧表示によりモニタリングすることができます。

チャンネルプランの選択機能

安定運用を行うために、電波環境に応じてチャンネルプランを選択することができます。Channel Plan Adviser では、あらかじめ調査しておいた TV 放送波、同じ場所で使用されるほかのワイヤレス機器の周波数や、チャンネルスキャンにより検出された電波など、いろいろな条件を加味してチャンネルプランを選択することができます。

トラブル履歴の記録機能

運用中に発生したトラブルをログとしてファイルに自動保存します。テキストエディターなどを使って、保存されたログファイルを参照することで、トラブル履歴を後から調査できます。

運用機器のコントロール機能

デジタルワイヤレスレシーバー、およびデジタルワイヤレスレシーバーとペアリングされているトランスミッターをコントロールできる機能を備えています。コントロールは、Property ウィンドウまたは Property List タブで行います。Property ウィンドウでは、1 台のデジタルワイヤレスレシーバー、およびそのデジタルワイヤレスレシーバーとペアリングされているトランスミッターを、運用状況をモニタリングしながら制御できます。Property List タブでは、複数のデジタルワイヤレスレシーバーやトランスミッターの設定値を一覧表示し、一括で同じ設定値に揃えるなど、スピーディーなコントロールが可能です。

設定値やモニタリング情報の保存および再利用

運用機器の設定値や Status Viewer 上の運用機器の配置などをファイルに保存することができます。
これらの情報は、保存したファイルを読み出すことによって、ワイヤレススタジオ上に再現できます。
また、ワイヤレススタジオ上に再現した設定値を、各運用機器へ反映させることもできます。

ペアリング補助機能

ワイヤレスリモートコントロールによってトランスミッターをリモートコントロールするために必要なペアリング操作を補助する、ペアリングウィザードを備えています。

時系列での電波環境の保存および解析機能

時系列での電波環境とアラート情報をモニタリングおよび保存できる RF Chart Grapher 機能と、RF Chart Grapher によって保存されたファイルを参照できる RF Chart Analyzer 機能があります。

周波数帯域全体の電波環境の保存および解析機能

デジタルワイヤレスレシーバーを使ってスキャンを行う Spectrum Analyzer 機能があります。スキャン結果はグラフ表示され、どの周波数帯に妨害波が存在するかを視覚的に確認することができます。また、スキャン結果をファイルに保存し、スキャン結果の比較などに使用できます。

ソフトウェアと運用機器の準備

ソフトウェアの動作条件

ワイヤレススタジオは、以下の条件を備えたコンピュータ上で動作するように設計されています。

項目	条件
OS	Windows Vista (SP2 以降) / Windows 7 (32bit/64bit) / Windows 8 (32bit/64bit)
CPU/RAM	接続するデジタルワイヤレスレシーバーの台数により、推奨スペックが変わります。
グラフィックカード	ビデオメモリ 128 MB 以上を推奨
ハードディスクの空き容量	1 GB 以上
モニター	1024 × 768 ドット以上を推奨
その他	英語表示が可能なこと 100Base-TX LAN カード CD-ROM ドライブ

推奨スペック

接続するデジタルワイヤレスレシーバーの台数別に、コンピュータの推奨スペックを以下に記載します。
コンピュータを用意する際に、参考にしてください。

デジタルワイヤレスレシーバーを 16 台まで接続する場合

CPU : Celeron 1.8 GHz 以上
RAM : 760 MB 以上

デジタルワイヤレスレシーバーを 24 台まで接続する場合

CPU : Dual CPU 1.8 GHz 以上
RAM : 1 GB 以上

デジタルワイヤレスレシーバーを 32 台まで接続する場合

CPU : Pentium Dual-Core CPU 2.60 GHz 以上
RAM : 2 GB 以上

デジタルワイヤレスレシーバーを 41 台まで接続する場合

CPU : Core i5 2.67 GHz 以上
RAM : 4 GB 以上

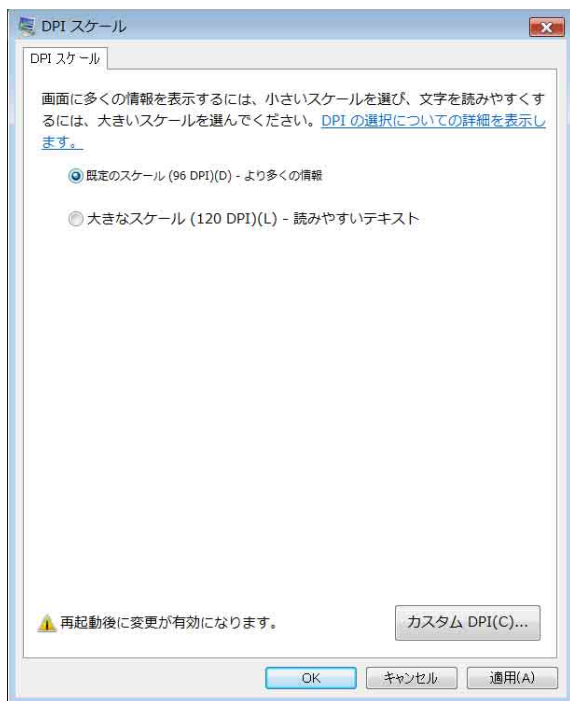
推奨画面設定

Wireless Studio を使用するコンピュータは、以下の画面設定でを使用することを推奨します。
その他の設定で使用了した場合、画面の表示が乱れることがあります。

- ◆ 画面設定のしかたについて詳しくは、お使いのコンピューターや OS の取扱説明書をご覧ください。

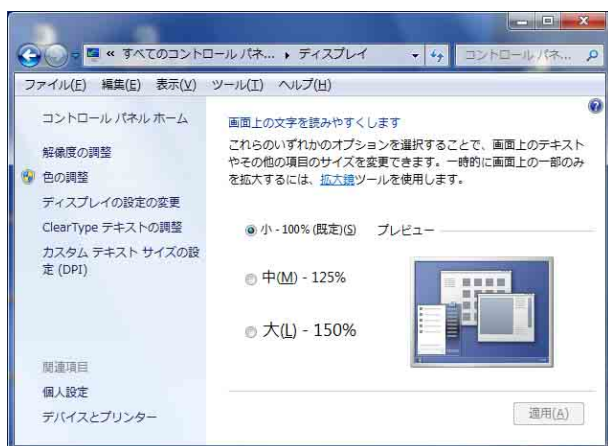
Windows Vista の場合

「既定のスケール（96 DPI）」で使用してください。



Windows 7 の場合

「小 -100%」、または「大 -150%」で使用してください。



Windows 8 の場合

「小 -100%」、または「大 -150%」で使用してください。



ソフトウェアのインストール

ご注意

- すでにワイヤレススタジオがインストールされている場合は、古いバージョンをアンインストール（7 ページ）してからインストールを行ってください。
- インストールを実行する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。
- Administrator 権限でログインしてください。

補足

以下のインストール方法は、Windows 7 をベースに説明しています。お使いの OS によっては手順が異なる場合があります。

- 1 CD-ROM「Wireless Studio」を CD-ROM ドライブに入れる。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックする。
- 3 「参照」ボタンをクリックし、「ファイルの参照」ダイアログで CD-ROM ドライブを指定する。
- 4 「setup.exe」を選択し、「開く」ボタンをクリックする。

「Welcome to the InstallShield Wizard for Wireless Studio」と表示されます。

5 「Next (次へ)」ボタンをクリックする。

「Choose an area」と表示されます。

すでにワイヤレススタジオがインストールされている場合は、「Program Already Installed」と表示されます。このメッセージが表示された場合、「Repair」を選択して上書きでインストールするか、「Remove」を選択していったんソフトウェアをアンインストールしたうえで、再度4の手順からやり直してください。

6 使用する地域を選択して「Next (次へ)」ボタンをクリックする。

7 インストールする場所を確認または変更する。

変更するには、「Change...」ボタンをクリックして表示されるダイアログでインストールする場所を指定します。

8 「Next (次へ)」ボタンをクリックする。

9 「Install」をクリックする。

インストールが始まります。
必要なファイルがハードディスクにコピーされると、「InstallShield Wizard Completed」と表示されます。

10 「Finish (終了)」ボタンをクリックする。

アンインストールするには

補足

以下のアンインストール方法は、Windows 7をベースに説明しています。お使いのOSによっては手順が異なる場合があります。

Windowsのコントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」を選択し、リストから「Wireless Studio」を選択して削除してください。

ネットワークの設定を行う

デジタルワイヤレスレシーバー、RMU-01、およびPCのネットワーク接続に関する設定を行います。

IPアドレス、サブネットマスクについて

- 一般回線をネットワーク接続しない場合には、以下のプライベートアドレスを設定してください。*には、ネットワーク内で重複しない任意の値を設定してください。

IP Address : 192.168.0.*

Subnet Mask : 255.255.255.0 (固定)

- 一般回線を使用する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

デジタルワイヤレスレシーバーのネットワーク設定

デジタルワイヤレスレシーバーのフロントパネルで設定を行います。

- ◆ 設定方法について詳しくは、デジタルワイヤレスレシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。

ポータブルベースユニットのネットワーク設定

ポータブルベースユニットのフロントパネルで設定を行います。

- ◆ 設定方法について詳しくは、ポータブルベースユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。

RMU-01のネットワーク設定

RMU-01に付属のセッティングツールソフトウェアで設定を行います。

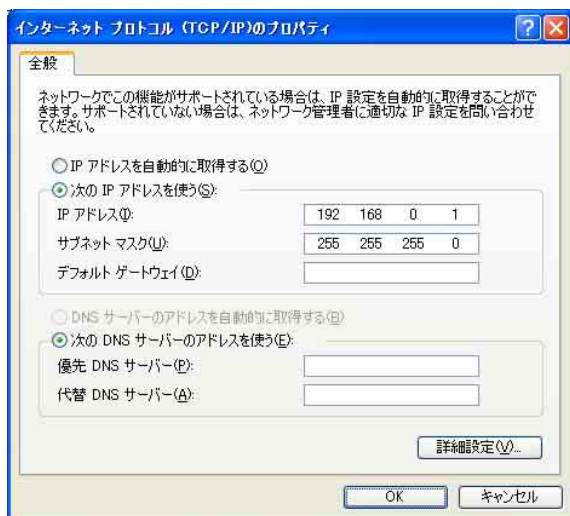
- ◆ 設定方法について詳しくは、RMU-01に付属のユーザーガイドをご覧ください。

PCのネットワーク設定

- 1 スタート>コントロールパネル>ネットワークとインターネット接続を選択する。
- 2 「ネットワーク接続」をクリックする。
- 3 ローカルエリア接続アイコンを右クリックして、「プロパティ」をクリックする。
- 4 「インターネットプロトコル4 (TCP/IP)」をダブルクリックする。
- 5 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックする。

ローカルエリア接続のプロパティウィンドウが開きます。

インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティウィンドウが開きます。



- 6 「次の IP アドレスを使う」をクリックし、IP アドレス欄に IP アドレスを入力する。

ご注意

IP アドレスは、ネットワーク接続する他の機器と重複しないように設定してください。

- 7 サブネットマスク欄にサブネットマスクを入力する。

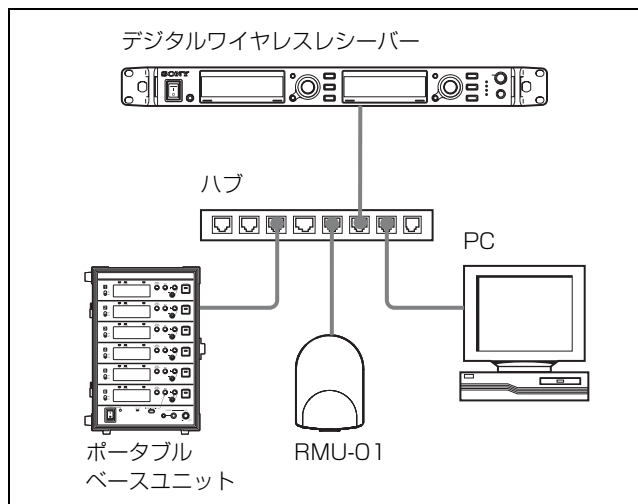
ご注意

「255 255 255 0」以外の値に設定すると、ネットワーク上のデジタルワイヤレスレシーバーの検索に時間がかかります。

- 8 「OK」をクリックして、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティウインドウを閉じる。

- 9 「閉じる」をクリックして、ローカルエリア接続のプロパティウインドウを閉じる。

ネットワークに接続する



デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニット、RMU-01、および PC を、ストレート LAN ケーブルを使用してハブ経由で接続します。ネットワークを正しく認識すると、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットのリアパネル上の LAN 端子のインジケータが緑色に点灯します。

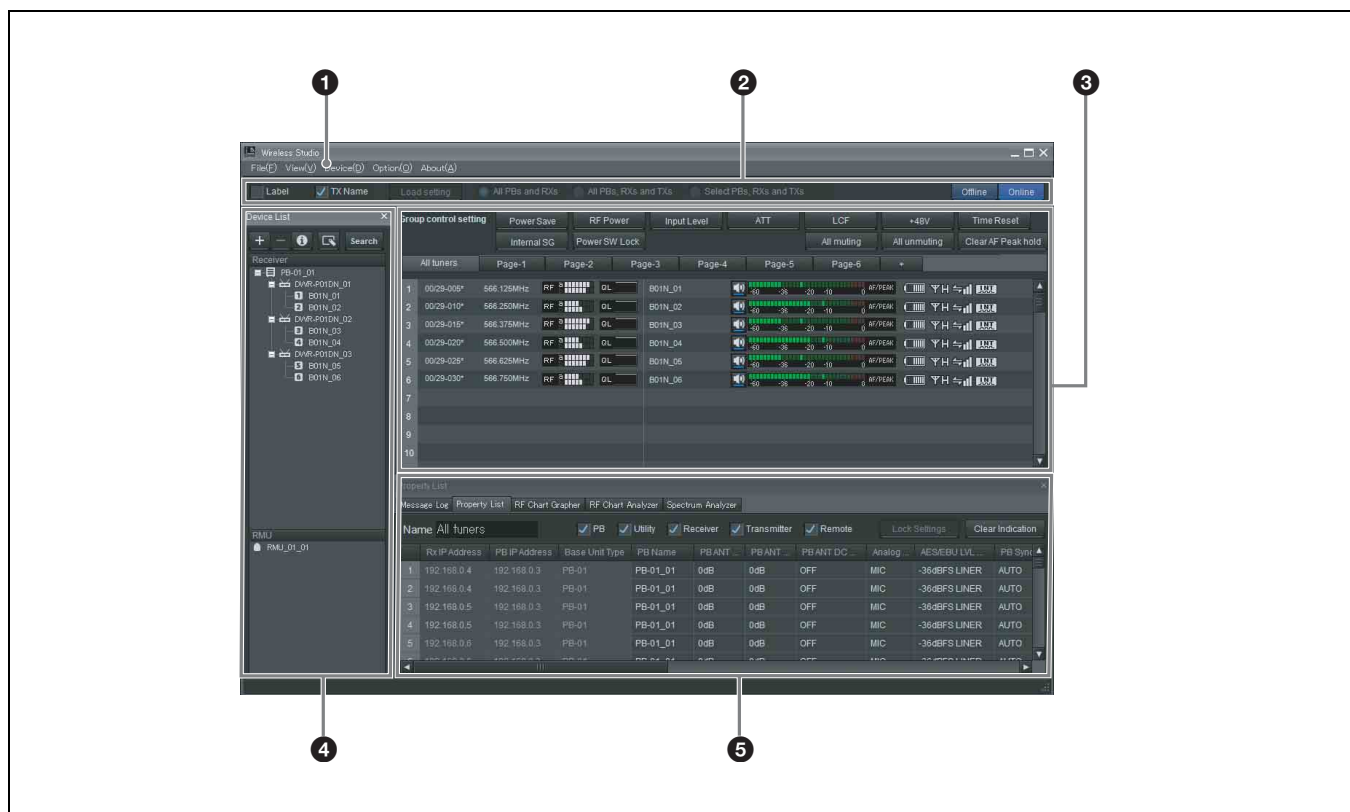
運用に応じて、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットのリアパネルに運用機器を接続してください。

- ◆ 接続する機器について詳しくは、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットのリアパネル上の LAN 端子のインジケータが緑色に点灯しないときは、接続を確認してください。
- 接続には、カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを 100 m 以内の長さで使用してください。接続に必要なケーブルの長さが 100 m を超える場合は、PC と機器との間にハブなどを接続してください。
- PC と機器を直接接続する場合は、クロスケーブルを使用してください。
- LAN 端子には直接手を触れないでください。静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、LAN ケーブルの取り付け、取り外しは、静電気を逃がしてから行ってください。

各部の名称と働き



① メニュー

各メニューをクリックすると、コマンドのメニューが表示されます。

◆ 詳しくは「メニュー」（11 ページ）をご覧ください。

② ツールバー

ツールバーでは、以下の設定が可能です。

Label：ラベル名の表示、非表示を切り換える。

TX Name：トランスミッター名の表示、非表示を切り換える。

◆ 詳しくは、「ラベル名とトランスミッター名の表示切り換えについて」（47 ページ）をご覧ください。

Load setting：All PBs and Rxes、All PBs, Rxes and Txes、Select PBs, Rxes and Txes のうち、選択されている機能を実行する。

All PBs and Rxes：すべてのポータブルベースユニットおよびデジタルワイヤレスレシーバーに対して、設定の流し込みを行う。

All PBs, Rxes and Txes：すべてのポータブルベースユニット、デジタルワイヤレスレシーバーおよびトランスミッターに対して、設定の流し込みを行う。

Select PBs, Rxes and Txes：任意に選択したポータブルベースユニット、デジタルワイヤレスレシーバーおよびトランスミッターに対して、設定の流し込みを行う。

Offline / Online：オンラインモードとオフラインモードを切り換える。

③ メインウィンドウ

メインウィンドウの Status Viewer には、デジタルワイヤレスレシーバーから取得した情報が表示されます。デジタルワイヤレスレシーバーの電波の受信状態や音声レベルのモニタリングができます。

◆ 詳しくは、「メインウィンドウ」（26 ページ）をご覧ください。

そのほか、以下の設定が可能です。

Group control setting：各設定ボタンで、Status Viewer 上に表示されているレシーバーチャンネルの設定を一括で変更する。

ご注意

工場出荷時の設定では、表示されていません。

All muting : Status Viewer 上に表示されているデジタルワイヤレスレシーバーから出力されている音声をミュートにする。

All unmuting : Status Viewer 上に表示されているデジタルワイヤレスレシーバーから出力されている音声のミュートを解除する。

Clear AF Peak hold : Status Viewer で表示する AF レベルメーターのホールド状態を解除する。

◆ 詳しくは、「Other setting ウィンドウ」(48 ページ)をご覧ください。

All muting、All unmuting、Clear AF Peak hold については、Status Viewer setting ウィンドウで表示、非表示を切り換えることができます。

◆ 詳しくは、「Status Viewer setting ウィンドウ」(48 ページ)をご覧ください。

④ Device List ウィンドウ

ネットワーク上に存在するデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットや RMU-01 がリストアップされます。

リストアップされた運用機器は、モニタリングの対象として Status Viewer に登録したり、Property ウィンドウを呼び出してコントロールを行うことができます。

◆ 詳しくは「Device List ウィンドウ」(22 ページ)をご覧ください。

⑤ サブウィンドウ

以下のタブから構成されています。

Message Log タブ

運用機器で発生した警告やエラーのメッセージを表示します。ここに表示された警告メッセージやエラーメッセージは、自動的にログとしてファイルに保存されます。

◆ 詳しくは、「Message Log タブ」(28 ページ)をご覧ください。

Property List タブ

複数のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやトランスミッターの設定値を一覧表示します。表示されるのは、Status Viewer の表示ページに登録されている運用機器です。一覧からセルを選択して値を変えることで、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやトランスミッターのコントロールを行うことができます。

◆ 詳しくは、「Property List タブ」(29 ページ)をご覧ください。

RF Chart Grapher タブ

デジタルワイヤレスレシーバーから取得した電波の受信状態と、受信状態に関連する警告メッセージを最大 24 時間分記録します。

◆ 詳しくは、「RF Chart Grapher タブ」(31 ページ)をご覧ください。

RF Chart Analyzer タブ

RF Chart Grapher タブで保存した内容を確認できます。

◆ 詳しくは、「RF Chart Analyzer タブ」(33 ページ)をご覧ください。

Spectrum Analyzer タブ

デジタルワイヤレスレシーバーから取得した使用周波数帯域の電波の受信状態を確認できます。

◆ 詳しくは、「Spectrum Analyzer タブ」(33 ページ)をご覧ください。

メニュー

File メニュー

既存の設定ファイルの読み込み、設定の保存を行うときなどに使います。

File メニューには、以下のコマンドが含まれています。

ご注意

New、Open、Save の各コマンドは、オフラインモード時のみ使用できます。

New : 新しく設定ファイルを作成する。

Open : 設定ファイルを開く。

Save : すでに開いている設定ファイルに、現在の設定を上書き保存する。設定ファイルにまだ名前を付けていないときは、「Save as」と同様に名前を付けて保存できる。

Save as : 現在の設定に名前を付けて、設定ファイル (拡張子: dwl2) として保存する。

Exit : ワイヤレススタジオを終了する。

View メニュー

各ウィンドウの表示、非表示を切り換えたり、ウィンドウサイズとレイアウトをインストール時の状態に戻すときに使います。

View メニューには、以下のコマンドが含まれています。

Default Size and Layout : ウィンドウサイズとレイアウトをインストール時の状態に戻す。

Device List : Device List の表示、非表示を切り換える。

Status Viewer : Status Viewer の表示、非表示を切り換える。

Message Log : サブウィンドウの Message Log タブの表示、非表示を切り換える。

Property List : サブウィンドウの Property List タブの表示、非表示を切り換える。

RF Chart Grapher : サブウィンドウの RF Chart Grapher タブの表示、非表示を切り換える。

RF Chart Analyzer : サブウィンドウの RF Chart Analyzer タブの表示、非表示を切り換える。

Spectrum Analyzer : サブウィンドウの Spectrum Analyzer タブの表示、非表示を切り換える。

Device メニュー

機器のネットワーク接続に関する設定を行います。

Device メニューには、以下のコマンドが含まれています。

Online monitoring and control : オンラインモードとオフラインモードを切り換える。このコマンドにチェックが入っているときはオンラインモード、チェックがはずれているときはオフラインモードです。

Load settings : ワイヤレススタジオ上の設定値をデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやトランスミッターに反映させる (オフラインモード時のみ使用できます)。

◆ 詳しくは、「設定ファイルを活用する」(19 ページ) をご覧ください。

Add a new device : Add a new device ウィンドウが開く。IP アドレスを入力して、デバイスウィンドウに手動で機器を追加するときに使用します。

◆ 詳しくは、「Device List ウィンドウに手動でデジタルワイヤレスレシーバー / ポータブルベースユニット / RMU-01 を追加するには」(24 ページ) をご覧ください。

Search devices : 同一サブネット上のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 を自動検出する (オンラインモード時のみ使用できます)。

Omit IP address list : Omit IP address list ウィンドウを開く (オフラインモード時のみ使用できます)。

◆ 詳しくは、「Omit IP address list ウィンドウ」(45 ページ) をご覧ください。

Setting lock : Setting lock ウィンドウを開く。ワイヤレススタジオからデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやトランスミッターの設定を変更することを禁止、および許可するときに使用します。

◆ 詳しくは、「Setting lock ウィンドウ」(46 ページ) をご覧ください。

Pairing wizard : Pairing wizard ダイアログボックスを開く。レシーバーチャンネルとトランスミッターのペアリングを行うときに使用します。

◆ 詳しくは、「ペアリングを行う」(16 ページ) をご覧ください。

Channel Plan Adviser : Channel Plan Adviser ウィンドウを開く。Channel Plan Adviser を使ってチャンネルプランの選択を行うときに使用します。

◆ 詳しくは、「チャンネルプランを選択する」(14 ページ) および「Channel Plan Adviser ウィンドウ」(40 ページ) をご覧ください。

Option メニュー

Option メニューには、以下のコマンドが含まれています。

Receiver CH Label setting : Receiver CH Label setting ウィンドウを開く。レシーバーチャンネルごとにラベル名を設定するときに使用します。

◆ 詳しくは、「Receiver CH Label setting ウィンドウ」(46 ページ) をご覧ください。

GP/CH Display setting : GP/CH display setting ウィンドウを開く。ワイヤレススタジオ上で表示するグループ / チャンネルの表示内容を設定するときに使用します。

◆ 詳しくは、「GP/CH display setting ウィンドウ」 (47 ページ) をご覧ください。

Status Viewer setting : Status Viewer setting ウィンドウを開く。メインウィンドウ上部に、トランスミッターの設定を一括変更するためのボタンや All muting、All unmuting などのショートカットボタンを表示するかどうかを選択します。

◆ 詳しくは「Status Viewer setting ウィンドウ」 (48 ページ) をご覧ください。

Other setting : Other setting ウィンドウを開く。AF/PEAK レベルメーターのピークレベルのホールド条件と、受信レベルの単位を設定します。

◆ 詳しくは、「Other setting ウィンドウ」 (48 ページ) をご覧ください。

Startup setting : Startup setting ウィンドウを開く。ワイヤレススタジオ起動時の動作を設定します。

◆ 詳しくは、「Startup setting ウィンドウ」 (49 ページ) をご覧ください。

Region setting : Region setting ウィンドウを開く。ワイヤレススタジオをインストールした際に選択した地域と異なる地域用のデジタルワイヤレスレシーバーを使用する際に使用します。

◆ 詳しくは、「Region setting ウィンドウ」 (49 ページ) をご覧ください。

About メニュー

About メニューには、以下のコマンドが含まれています。

Link to Message Log : 警告メッセージやエラーメッセージのログファイルが保存されているフォルダーを開く。サブウィンドウの Message Log タブに表示されたメッセージは、ログファイルとして自動的に保存されています。

System version information : System version information ウィンドウを開く。ネットワーク上のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットや RMU-01 のバージョン、およびデジタルワイヤレスレシーバーがトランスミッターから受信したトランスミッターのバージョンが表示されます。

Version information : ワイヤレススタジオのバージョン情報を表示する。

基本的な使いかた

ワイヤレススタジオには、オンラインモードとオフラインモードの2つのモードがあります。

オンラインモード

オンラインモードは、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 とネットワークを介してリアルタイムに通信を行い、運用機器をモニタリング、およびコントロールするモードです。

運用機器の検出とモニタリング (13 ページ)

ネットワーク上にあるデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットや RMU-01 の検出を行い、モニタリング可能な状態にします。その後のペアリングや運用機器のコントロールの前提となる作業です。



チャンネルプランを選択する (14 ページ)

デジタルワイヤレスレシーバーのチャンネルスキャン機能を使って電波環境を測定し、その結果を確認しながらチャンネルプランの選択を行います。



ペアリングを行う (16 ページ)

ワイヤレスリモートコントロールによるトランスミッターのコントロールを行うためには、ペアリングが必要です。ワイヤレススタジオでは、ペアリングウィザードで示される手順に従ってレシーバーとトランスミッターのペアリングを行います。



運用機器のコントロールを行う (17 ページ)

運用機器のコントロールは、Property ウィンドウや、サブウィンドウの Property List タブで行います。



運用中の電波環境を記録する (19 ページ)

各デジタルワイヤレスレシーバーの電波レベルと QL の変化を記録します。また、電波や QL に関する警告メッセージを記録します。

オフラインモード

オフラインモードは、設定ファイルに関する操作（保存、呼び出しなど）と、ワイヤレススタジオに表示されている設定値の運用機器への一括反映を行うモードです。

設定ファイルを活用する (19 ページ)

デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやトランスミッターの設定値は、ファイルに保存することができます。保存しておいたファイルを開いて、運用機器に反映させることで、以前の設定値を再利用することができます。

運用機器の検出とモニタリング

1 スタート>すべてのプログラム>Sony > Digital Wireless Microphone System > Wireless Studio を選択する。

2 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 が自動的に検出されて、Device List ウィンドウに追加されます。

Device List に追加されたデジタルワイヤレスレシーバーは、Status Viewer の All tuners ページに自動的に登録され、モニタリングが可能になります。

◆ 表示される内容について詳しくは、「Status Viewer とメーターアイコン」(26 ページ)をご覧ください。

ご注意

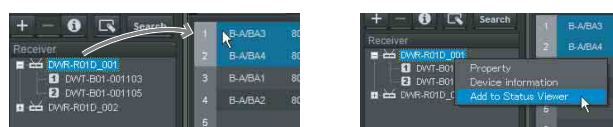
Windows ファイアウォールや、セキュリティソフトのファイアウォールの影響によって、機器の自動検出ができないことがあります。自動検出ができない場合は、ファイアウォールの設定を無効にしてください。



必要なレシーバーチャンネルだけをモニタリングするには Status Viewer のページを All tuners 以外のページに切り替えて、レシーバーチャンネルを手動で登録することで、必要なレシーバーチャンネルに限定してモニタリングすることができます。

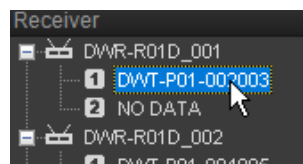
Device List 上で選択したレシーバーチャンネルを Status Viewer 上にドラッグ & ドロップするか、右クリックして

表示されるコンテキストメニューで Add to Status Viewer をクリックすることで、Status Viewer に表示することができます。

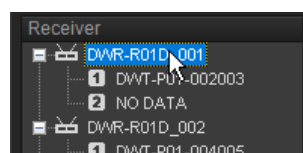


レシーバーチャンネルの選択は、以下のいずれかの方法で行います。

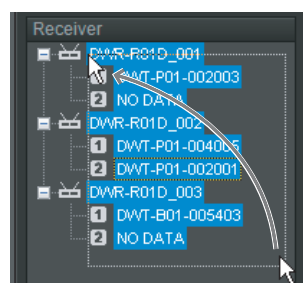
- レシーバーチャンネル表示をクリックすると、レシーバーチャンネルが1つ選択されます。



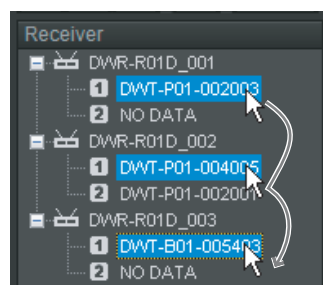
- レシーバー表示をクリックすると、そのデジタルワイヤレスレシーバーに内蔵されている2つのレシーバーチャンネルが両方とも選択されます。



- 背景部分でドラッグすると、ドラッグした範囲のレシーバーチャンネル表示が複数選択されます。



- Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらレシーバーチャンネル表示をクリックすると、複数のレシーバーチャンネル表示が選択されます。



自動検出を個別の機器で無効にするには

Omit IP address list ウィンドウ (45 ページ) を使います。

正常にモニタリングできないときは

下表に従って対処してください。

現象	原因	対処法
デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットが認識されない。	ホスト名や IP アドレスの設定が他の機器の設定と重複しています。	ホスト名、IP アドレスの設定を確認してください。
デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットの認識に時間がかかる。	ネットワーク内にブロードバンドルーターまたはインターネットに接続している PC があるとき、認識に数十分かかることがあります。	ブロードバンドルーターまたはインターネットに接続している PC が接続されているネットワークとは別のネットワークを構築してください。
デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットの検出結果を示すダイアログの IP アドレス表示欄に、異常な値が表示される。	PC にモデムや ISDN ルーターが装備または接続されている場合、以下の状態で起動すると、PC はモデムなどを使用して検索を行うため、ワイヤレススタジオが誤動作することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットの電源が入っていない。 LAN ケーブルが接続されていない。 	デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットの電源および LAN ケーブルの接続を確認してください。
デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットが自動検出されない。	Windows ファイアウォールや、セキュリティソフトのファイアウォールの影響によって、機器の自動検出ができないことがあります。	PC のファイアウォール設定を無効にしてください。
「Wireless Studio detected version unmatch with DWR-R01D. Please update the firmware of DWR-R01D to ver.1.20 or later.」というメッセージが表示されて、モニタリングできない。	Wireless Studio Ver.3.0 以降は、DWR-R01D のファームウェア Ver.1.20 以降に対応しています。	デジタルワイヤレスレシーバーのファームウェアのアップデートが必要です。お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口へご相談ください。

チャンネルプランを選択する

安定した運用を行うために、電波環境にあわせたチャンネルプランを選択します。

ワイヤレススタジオでは、Channel Plan Adviser で示される手順に従ってチャンネルプランを選択することで、より安定した運用を行うことができます。

Channel Plan Adviser には、以下のモードがあります。

Basic mode : デジタルワイヤレスレシーバーのチャンネルスキャン機能を使って、検出された妨害波を回避したチャンネルプランの選択を行います。

Advanced mode : Basic mode で行うチャンネルスキャンに加えて、既知の TV 放送波やほかのワイヤレス機器によって占有されている周波数の情報などを元に、チャンネルプランの選択を行います。

◆ 詳しくは、「Channel Plan Adviser ウィンドウ」(40 ページ)をご覧ください。

ここでは、Basic mode を使った簡易的なチャンネルプランの選択方法について説明します。

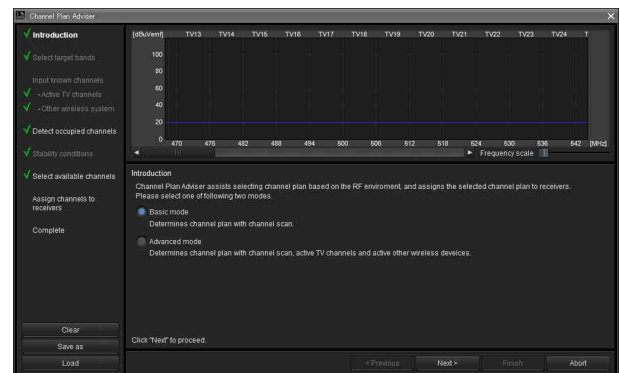
◆ Advanced mode を使ったチャンネルプランの選択について詳しくは、「チャンネルプランの選択方法」(42 ページ)をご覧ください。

1 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバーが自動的に検出されて Device List ウィンドウに追加されます。

2 Device メニュー > Channel Plan Adviser を選択する。

以下の画面が表示され、Channel Plan Adviser が開始します。



- 10 必要に応じて Reflect recommended GP/CH のチェックの有無を変更してから、「Finish」をクリックする。

Channel Plan Adviser を終了します。

Reflect recommended GP/CH にチェックを入れた場合は、ワイヤレススタジオ上で選択できるグループ/チャンネルが Channel Plan Adviser が推奨するものだけになります。また、Channel Plan Adviser が推奨するグループ/チャンネルが、サブウィンドウの Spectrum Analyzer タブにも表示されます。

ペアリングを行う

ワイヤレスリモートコントロールによるトランスミッターのリモートコントロールを行うためには、レシーバーチャンネルとトランスミッターのペアリングをチャンネルごとに行う必要があります。

ワイヤレススタジオでは、ペアリングウィザードで示される手順に従ってペアリングを行うことで、たくさんのチャンネルのペアリングをスムーズに行うことができます。

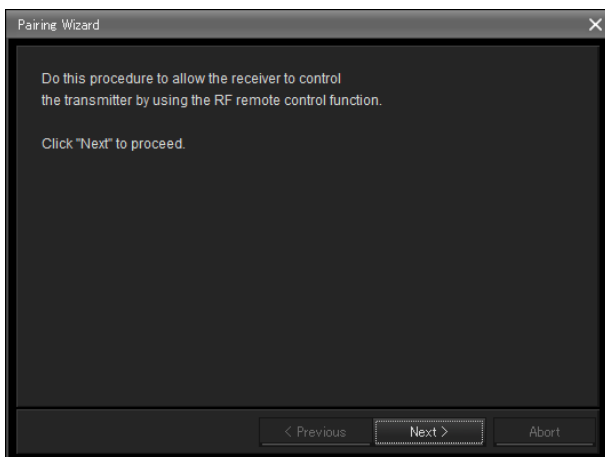
ペアリングウィザードによるペアリング操作は以下の手順で行います。

- 1 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 が自動的に検出されて Device List ウィンドウに追加されます。

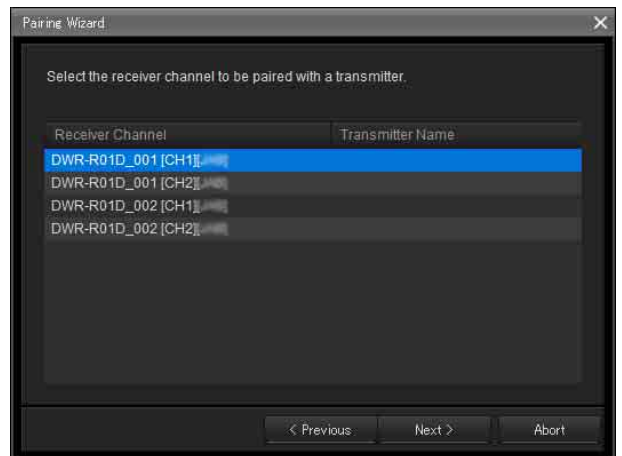
- 2 Device メニュー > Pairing wizard を選択する。

以下の画面が表示され、ペアリングウィザードが開始します。



- 3 「Next >」をクリックする。

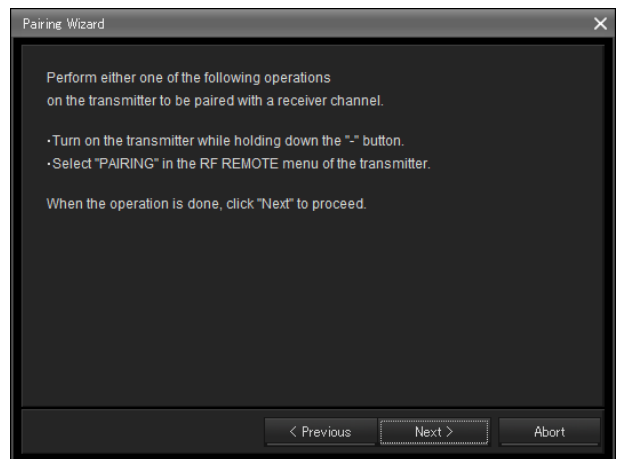
以下の画面が表示されます。



ここでは、Device List に表示されているデジタルワイヤレスレシーバーのすべてのレシーバーチャンネルが表示されます。

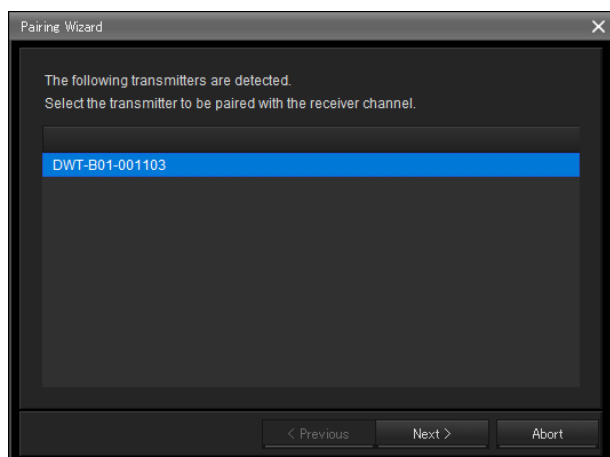
- 4 ペアリングしたいレシーバーチャンネルを選択し、「Next >」をクリックする。

以下の画面が表示されます。



- 5 ペアリングしたいトランスミッターを操作して、ペアリングモードに設定してから、「Next >」をクリックする。

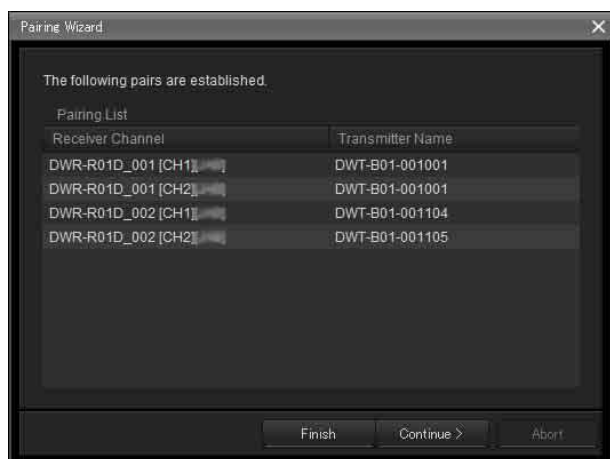
トランスミッターが検出されると、以下の画面が表示されます。



- 6 ペアリングしたいトランスミッターを選択して、「Next >」をクリックする。

デジタルワイヤレスレシーバーとトランスミッターの間でリモートコントロールに関する情報の交換が行われます。

情報の交換が完了すると、以下の画面が表示されます。



ここでは、ペアリング済みのレシーバーチャンネルとトランスミッターの名前がリストアップされます。ペアリングが完了していないレシーバーチャンネルは、右側の Transmitter Name の欄が空白になっています。ペアリングが完了していないレシーバーチャンネルがある場合は、「Continue」をクリックして上記の手順3以降を繰り返して、レシーバーチャンネルのペアリング操作を行います。

- 7 希望するすべてのペアリングが完了したら、「Finish」をクリックする。

ウィザードが終了します。

以上で、レシーバーチャンネルとトランスミッターがペアリングされ、ワイヤレスリモートコントロールによるリモートコントロールが可能になります。

運用機器のコントロールを行う

ワイヤレススタジオでは、Property ウィンドウや、サブウィンドウの Property List タブから運用機器のコントロールを行うことができます。

Property ウィンドウには、選択したデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットについての情報が表示されます。Property ウィンドウでは、ウィンドウ上部のアイコンメーターを見ながら設定を行うことができます。サブウィンドウの Property List タブには、Status Viewer に表示されているレシーバーチャンネルとトランスミッターの設定が一覧表示されます。Property List タブでは、複数のポータブルベースユニット、レシーバーチャンネルやトランスミッターの設定を一括して変更することができます。

Property ウィンドウでコントロールを行う

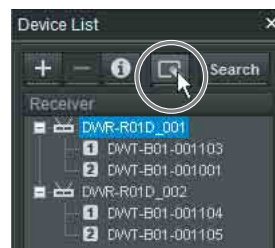
Property ウィンドウでコントロールを行う場合は、以下の手順で行います。

- 1 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

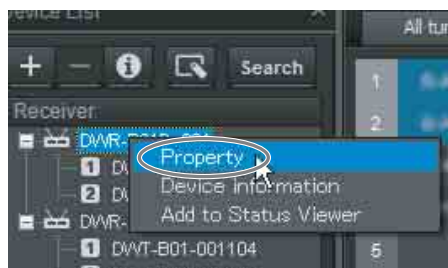
オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットが自動的に検出されて Device List ウィンドウに追加されます。

- 2 以下のいずれかの操作を行い、Property ウィンドウを開く。

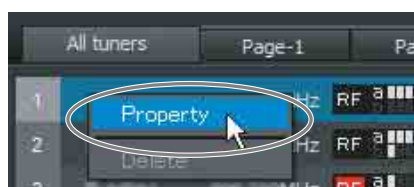
- Device List 上で、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやレシーバーチャンネルを選択して、Device List ウィンドウ上部にある Property ウィンドウボタンをクリックする。



- Device List 上で、デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやレシーバーチャンネルを右クリックし、表示されたコンテキストメニューから「Property」を選択する。



- Status Viewer に表示されているメーターアイコン表示を右クリックして表示されるコンテキストメニューから「Property」を選択する。



3 Property ウィンドウで、設定値を変更する。

変更内容は、すぐにポータブルベースユニット、レシーバーチャンネルやトランスミッターに送信され、反映されます。



- ◆ Property ウィンドウの内容について詳しくは、「Property ウィンドウ」(35 ページ)をご覧ください。

サブウィンドウの Property List タブでコントロールを行う

サブウィンドウの Property List タブでコントロールを行う場合は、以下の手順で行います。

- 1 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバーが自動的に検出されて Device List ウィンドウに追加されます。

- 2 サブウィンドウの Property List タブをクリックする。

Property List タブが表示されます。

Property List タブには、Status Viewer に登録されているレシーバーチャンネルが表示されます。

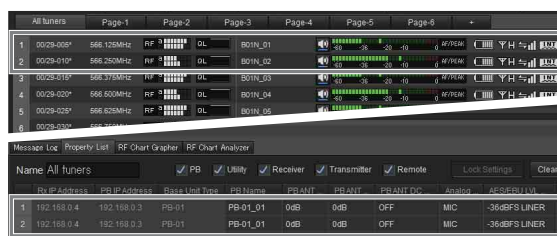
設定を変更したいレシーバーチャンネルが Property List タブに表示されていない場合は、Status Viewer の表示を設定変更したいレシーバーチャンネルが登録されているページに切り換える、または Status Viewer に設定変更したいレシーバーチャンネルを登録してください。

- ◆ Status Viewer に表示するページの切り換えかたについて詳しくは、「Status Viewer とメーターアイコン」(26 ページ)をご覧ください。

- ◆ Status Viewer へのレシーバーチャンネルの登録のしかたについて詳しくは、「必要なレシーバーチャンネルだけをモニタリングするには」(13 ページ)をご覧ください。

- 3 Property List タブの設定値一覧に表示されているセルをクリックして、設定値を変更する。

変更内容は、すぐにデジタルワイヤレスレシーバーやトランスミッターに送信され、反映されます。



- ◆ Property List タブの内容や設定変更のしかたについて詳しくは、「Property List タブ」(29 ページ)をご覧ください。

運用中の電波環境を記録する

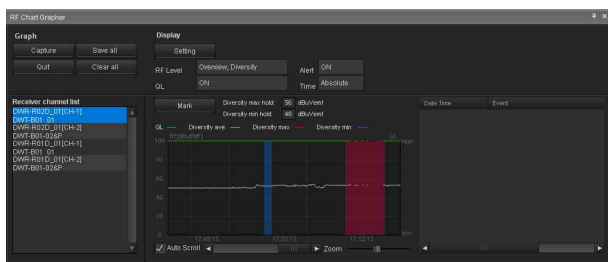
ワイヤレススタジオでは、RF Chart Grapher を使用して、運用中の電波環境と発生したアラート情報を記録することができます。これにより、電波環境とアラート内容の因果関係を明らかにできます。

ここでは、電波環境のモニタリング開始から保存までの流れについて説明します。

- ◆ そのほかの詳細な操作方法については、「RF Chart Grapher タブ」(31 ページ)をご覧ください。

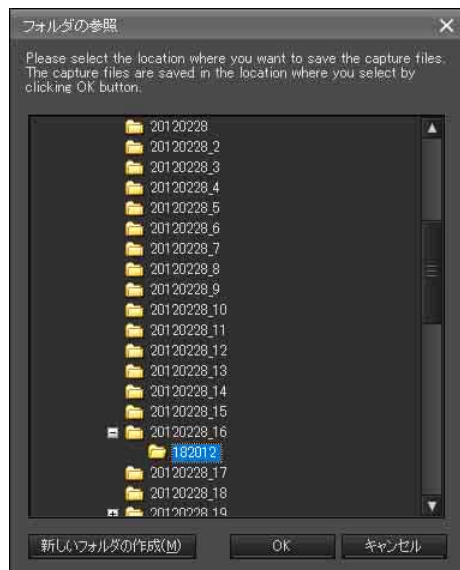
- 1 Device メニューの Online monitoring and control にチェックを入れる。

オンラインモードに切り替わり、デジタルワイヤレスレシーバーが自動的に検出されて Device List ウィンドウに追加され、電波環境のモニタリングを開始します。



- 2 運用が終了したら、取得した RF や QL のデータを保存するために、「Save all」をクリックします。

下記のダイアログが表示されます。



- 3 データを保存したいフォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

選択したフォルダの下に、すべてのレシーバーチャンネルの RF や QL のデータが保存されます。

保存したデータは、RF Chart Analyzer で表示できます。

- ◆ RF Chart Analyzer について詳しくは、「RF Chart Analyzer タブ」(33 ページ)をご覧ください。

設定ファイルを活用する

ワイヤレススタジオでは、運用機器の設定をファイルに保存しておくことができます。

ファイルに保存しておいた設定値を呼び出し、Load settings 機能を使って運用機器にその設定値を反映させることにより、過去の設定を再現できます。

また、ファイルから設定値を呼び出した後、ネットワーク上の運用機器と接続せずにワイヤレススタジオ上で設定値を編集することもできます。ワイヤレススタジオ上で編集した設定値を運用機器に反映させることで、過去の設定をベースにした別の新しいシステムを構築できます。

ファイルに保存されるのは、以下の項目です。

- Device List に表示されている各運用機器の設定値
- Status Viewer に登録されているメーターアイコンの配置
- Omit IP address list の設定値

設定をファイルに保存する

- 1 Device メニューの Online monitoring and control のチェックをはずす。

オフラインモードに切り替わります。

- 2 File メニュー> Save as を選択する。

現在の設定が設定ファイルとして保存されます。

ご注意

トランスミッターの設定値を保存するときは、トランスミッターの電源が入っていて、電波が正しく受信できている状態で行ってください。トランスミッターから情報を正しく受信できない場合は、そのトランスミッターの工場出荷値が設定値として保存されます。

ファイルを開いて設定値を編集する

- 1 Device メニューの Online monitoring and control のチェックをはずす。

オフラインモードに切り替わります。

- 2 File メニュー＞ Open を選択する。
- 3 保存しておいたファイルを選択してOKをクリックする。
ファイルに保存されていた情報がワイヤレススタジオの画面上に表示されます。
- 4 設定値を変更する。
Property ウィンドウや、サブウィンドウの Property List タブで、設定値を変更します。
◆ 設定変更のしかたについて詳しくは、「Property List タブ」(29 ページ) および「Property ウィンドウ」(35 ページ)をご覧ください。

編集が完了したら、必要に応じてファイルに保存します。

ご注意

オフラインモードで設定値の編集を行うときは、Receiver Model、および Transmitter Type を変更できますが、実際の運用機器と違う値に変更すると、Load settings による設定値の反映を行う際に不整合が生じることがあります。その場合は、該当する Receiver Model や Transmitter Type のセルが黄色で表示されます。Receiver Model、および Transmitter Type を変更する際は、実際の運用機器のモデル名などを確認してください。

ファイルを開いて設定値を反映させる

- 1 Device メニューの Online monitoring and control のチェックをはずす。
オフラインモードに切り替わります。
- 2 File メニュー＞ Open を選択する。
- 3 保存しておいたファイルを選択してOKをクリックする。
ファイルに保存されていた情報がワイヤレススタジオの画面上に表示されます。
このとき、必要に応じて設定の編集を行います。
- 4 Device メニュー＞ Load settings から、All Base unit's and All Receiver's settings、All Base unit's, All Receiver's and All Transmitter's settings、Select Base unit's, Receiver's and Transmitter's settings のいずれかを選択する。
運用機器に設定が反映されます。なお、どの運用機器に設定が反映されるかは、選択した項目によって変わります。

All Base unit's and All Receiver's settings を選択した場合

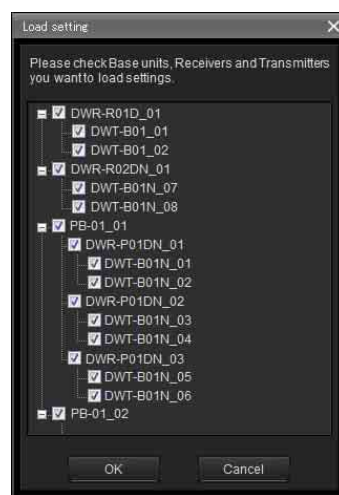
Device List に表示されているすべてのデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットに設定値が反映されます。

All Base unit's, All Receiver's and All Transmitter's settings を選択した場合

Device List に表示されているすべてのデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニット、およびデジタルワイヤレスレシーバーとペアリングされているトランスミッターに設定値が反映されます。

Select Base unit's and Receiver's and Transmitter's settings を選択した場合

Load setting ウィンドウが表示されます。Load setting ウィンドウで選択したポータブルベースユニット、デジタルワイヤレスレシーバーおよびトランスミッターに設定値が反映されます。



何らかの理由で設定値が反映できなかった項目は Property List タブのセルが黄色で表示されますので、運用機器の状態や設定値を確認してください。

ご注意

- デジタルワイヤレスレシーバーに設定値を反映させるためには、以下の条件を満たしている必要があります。
 - Device List に表示されているデジタルワイヤレスレシーバーの IP アドレスが実際のデジタルワイヤレスレシーバーの IP アドレスと一致している。
 - Receiver Model の設定値が実際のデジタルワイヤレスレシーバーの Receiver Model と一致している。
- トランスミッターに設定値を反映させるためには、以下の条件を満たしている必要があります。
 - ペアリングが完了している。
 - Transmitter Type の設定値が、実際にペアリングされているトランスミッターの機種と一致している。
 - トランスミッターがワイヤレスリモートコントロー

ルのサービスエリア内に入っている。

- ポータブルベースユニット、およびポータブルベースユニットに装着されているポータブルレシーバーに設定値を反映させるためには、以下の条件を満たしている必要があります。
 - Device List に表示されているポータブルベースユニットおよびポータブルレシーバーの IP アドレスが実際のポータブルベースユニットおよびポータブルレシーバーの IP アドレスを一致している。
 - Receiver Model の設定値が実際のポータブルレシーバーの Receiver Model と一致している。

機器ごとの個別設定ファイルを活用する

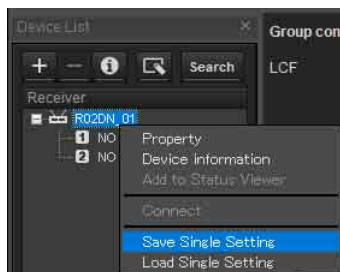
ワイヤレススタジオでは、運用機器個別の設定を単独でファイルに保存しておくこともできます。ファイルに保存しておいた設定値を呼び出し、運用機器に反映させることにより、過去の設定を再現できます。

ご注意

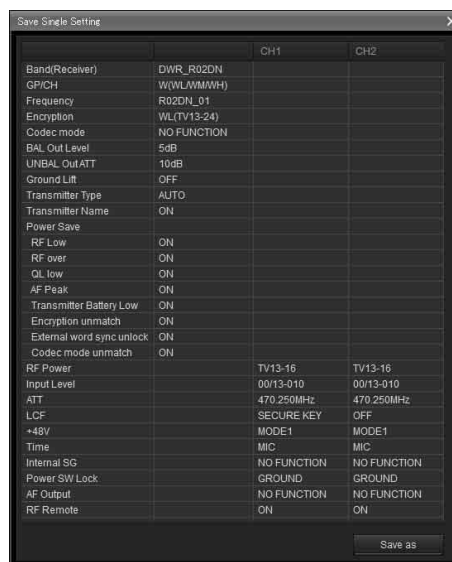
ファイルに保存されるのは、機器の設定値のみとなります。

機器の個別設定をファイルに保存するには

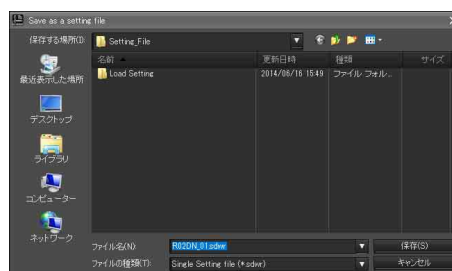
- 1 Device List 上で設定を保存したい機器を選択し、右クリックして表示されたコンテキストメニューから Save Single Setting を選択する。



- 2 Save Single Setting ウィンドウが表示されるので、Save as ボタンをクリックする。



- 3 ファイル保存のためのダイアログボックスが表示されるので、任意のファイル名を入力して「保存」ボタンをクリックする。

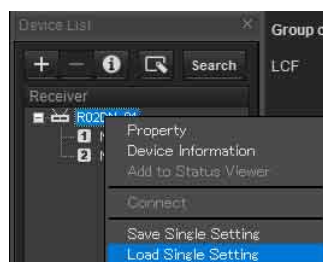


ご注意

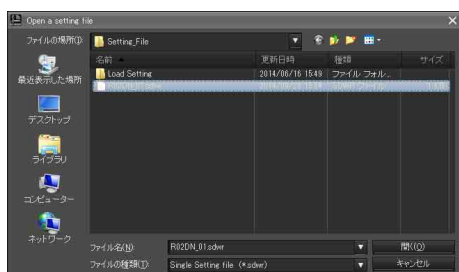
トランスミッターの設定値を保存するときは、トランスミッターの電源が入っていて、電波が正しく受信できている状態で行ってください。トランスミッターから情報を正しく受信できない場合は、そのトランスミッターの工場出荷時の値が設定値として保存されます。

保存した個別設定ファイルを開いて設定値を反映させるには

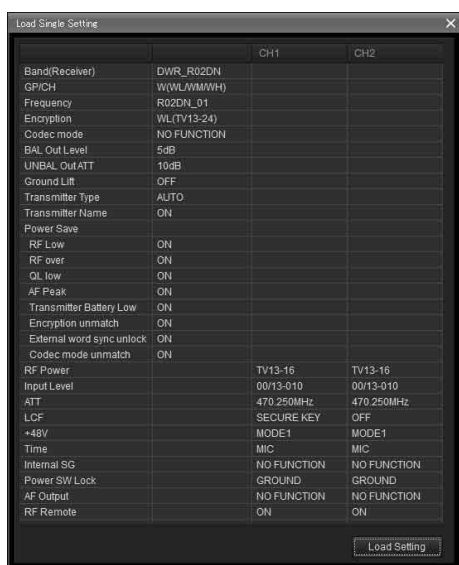
- 1 Device List 上で設定値を反映させたい機器を選択し、右クリックして表示されたコンテキストメニューから Load Single Setting を選択する。



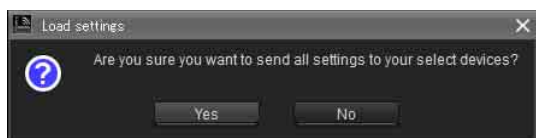
- 2 ファイル選択のダイアログボックスが表示されるので、個別設定ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックする。



- 3 Load Single Setting ウィンドウが表示されるので、選択した個別設定ファイルの内容を確認して Load Setting ボタンをクリックする。



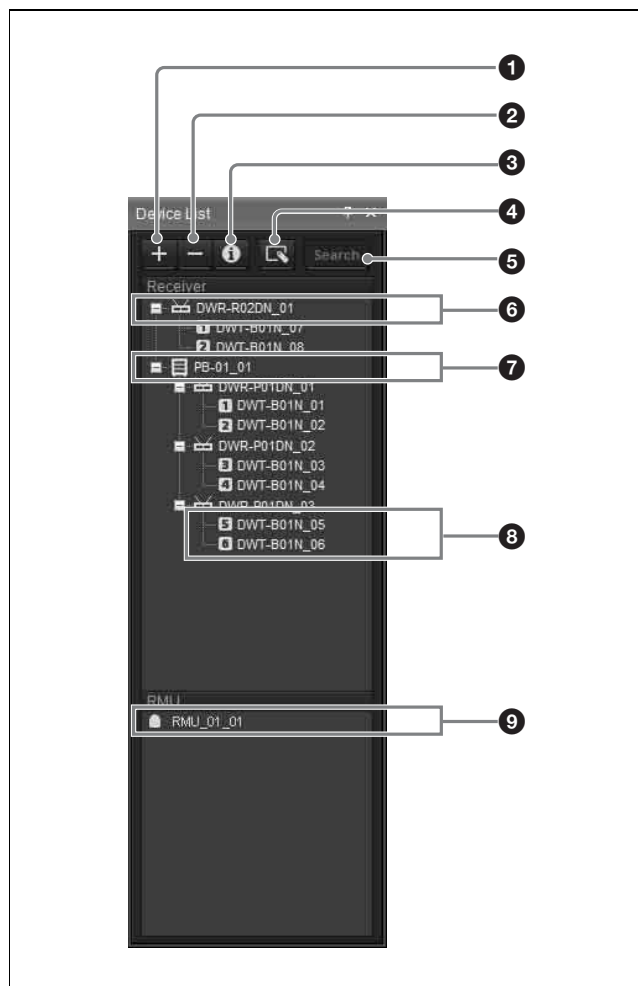
- 4 設定値を機器に反映させることを確認するダイアログボックスが表示されるので、Yes をクリックする。



これで個別設定ファイルの内容が運用機器に反映されます。何らかの理由で設定値が反映できなかった項目は Property List タブのセルが黄色で表示されますので、運用機器の状態や設定値を確認してください。

Device List ウィンドウ

ネットワーク上のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 をリスト表示し、各デジタルワイヤレスレシーバーの運用チャンネル情報としてレシーバーチャンネルを2つ表示します。また、アイコンによって各機器のステータス表示を行います。



① + (追加) ボタン

Add a new device ウィンドウが開きます。機器の種類と IP アドレスを指定することで、Device List に機器を追加できます。

◆ 詳しくは、「Device List ウィンドウに手動でデジタルワイヤレスレシーバー / ポータブルベースユニット / RMU-01 を追加するには」(24 ページ)をご覧ください。

② - (削除) ボタン

リスト上で選択されている機器またはレシーバーチャンネルをリストから削除します (オフラインモード時のみ使用できます)。

③ Device Information ボタン

Device information ウィンドウが開きます。リスト上で選択されている機器の種類や IP アドレスの情報を見ることができます。

◆ 詳しくは、「Device List ウィンドウに登録された機器の種類と IP アドレスを確認するには」（24 ページ）をご覧ください。

④ Property Window ボタン

Property ウィンドウが開きます。選択されているデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットやデジタルワイヤレスレシーバーとペアリングされたトランスミッターの設定の確認、変更を行います。

◆ 詳しくは、「Property ウィンドウ」（35 ページ）をご覧ください。

⑤ Search（自動検出）ボタン

同一サブネット上のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 を自動検出して Device List に追加します（オンラインモード時のみ使用できます）。

⑥ レシーバー表示

Device List に追加されたネットワーク上のデジタルワイヤレスレシーバーから取得されたレシーバー名を表示します。

⑦ ポータブルベースユニット表示

Device List に追加されたネットワーク上のポータブルベースユニットから取得されたユニット名を表示します。

⑧ レシーバーチャンネル表示









デジタルワイヤレスレシーバーのレシーバーチャンネルが表示されます。トランスミッターからメタデータにより取得されたトランスミッター名を表示します。



⑨ RMU 表示

Device List に追加されたネットワーク上の RMU-01 から取得されたリモートコントロールユニット名を表示します。

ステータス表示アイコンについて

ネットワーク上のデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 の状態を、アイコンで以下のように表示します。

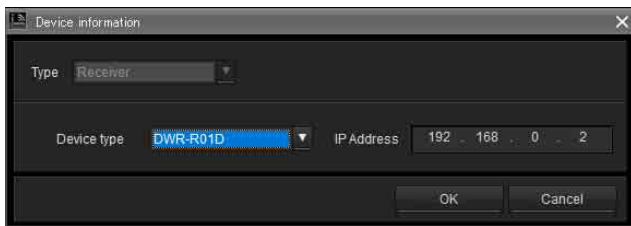
機器	アイコン	意味
デジタルワイヤレスレシーバー		正常に動作中
		デジタルワイヤレスレシーバーと通信していません。 オンラインモードのときは、デジタルワイヤレスレシーバーの電源が切れている、IP アドレスが重複している、ネットワーク回線に不具合がある、などが考えられます。各機器の状態を確認してください。 また、オフラインモードのときもこのアイコンが表示されます。
RMU-01		正常に動作中
		RMU-01 と通信していません。 オンラインモードのときは、RMU-01 の電源が切れている、IP アドレスが重複している、ネットワーク回線に不具合がある、などが考えられます。各機器の状態を確認してください。 また、オフラインモードのときもこのアイコンが表示されます。
ポータブルベースユニット		正常に動作中
		ポータブルベースユニットと通信していません。オンラインモードのときは、ポータブルベースユニットの電源が切れている、IP アドレスが重複している、ネットワーク回線に不具合がある、などが考えられます。各機器の状態を確認してください。 また、オフラインモードのときもこのアイコンが表示されます。
		ポータブルベースユニットに装着されているポータブルレシーバーと正常動作中
		ポータブルベースユニットの各レシーバーチャンネルの電源がオフされていることを示します。ただし、1、2（3、4 の場合および 5、6 の場合も同様）の両方の電源がオフされた場合は、×表示が消え、上階層のポータブルレシーバーアイコンが通信していないことを示す表示に変わります。

機器	アイコン	意味
ポータブルレシーバー		正常に動作中
		ポータブルレシーバーと通信していません。オンラインモードのときは、ポータブルレシーバーの電源が切れている、IP アドレスが重複している、ネットワーク回線に不具合がある、などが考えられます。各機器の状態を確認してください。 また、オフラインモードの時もこのアイコンが表示されます。

Device List ウィンドウに登録された機器の種類と IP アドレスを確認するには

以下のいずれかの方法で Device information ウィンドウを表示します。

- Device List 上で、機器を選択して、Device List ウィンドウ上部にある Device Information ボタンをクリックする。
- Device List 上で、機器を右クリックし、表示されたコンテキストメニューから Device information を選択する。



Device List ウィンドウに手動でデジタルワイヤレスレシーバー / ポータブルベースユニット / RMU-01 を追加するには

以下のいずれかの方法で Add a new device ウィンドウを呼び出します。

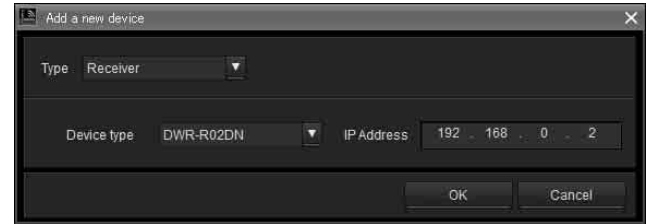
- Device List の + ボタンをクリックする。
 - Device メニュー > Add a new device を選択する。
- 表示されたウィンドウの各項目に Device List に追加したい機器の情報を入力 / 設定した後、「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

情報を入力したポータブルベースユニット / デジタルワイヤレスレシーバー / RMU-01 が、Device List に追加されます。

Type : Device List に追加したい機器のタイプを Receiver、RMU、PB から選択します。選択したタイプにより、選択可能な Device type が変わります。

Type	Device type
Receiver	DWR-R01D
	DWR-R02DN
RMU	RMU-01
PB	PB-01

Type で Receiver または RMU を選択した場合には

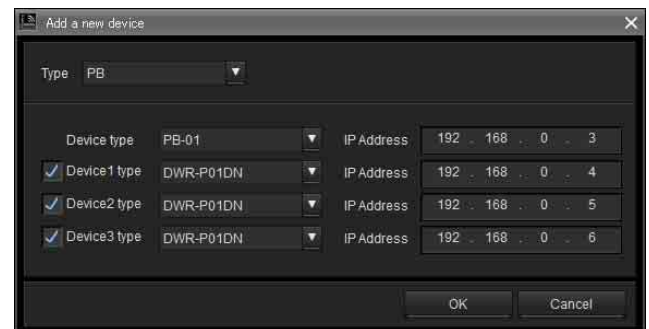


Device type : Device List に追加したい機種を選択します。

IP Address (IP アドレス) : Device List に追加したいデジタルワイヤレスレシーバー / RMU-01 の IP アドレスを入力します。

Type で PB を選択した場合には

ポータブルベースユニットおよび接続されているポータブルレシーバーをまとめて登録するため、Device type に加えて、Device1 type、Device2 type、Device3 type を入力する必要があります。



Device type : Device List に追加したいポータブルベースユニットの機種を選択します。

Device1 type、Device2 type、Device3 type : ポータブルベースユニットにポータブルレシーバーを登録する場合は、チェックを入れ、ポータブルレシーバーの機種を選択します。

IP Address (IP アドレス) : Device List に追加したいポータブルベースユニットおよびポータブルレシーバーの IP アドレスを入力します。

デジタルワイヤレスレシーバー / ポータブルベースユニット / RMU-01 の追加をキャンセルするには

「Cancel」をクリックします。

コンテキストメニューについて

Device List ウィンドウ上のノードを右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。

Property (プロパティ) : 右クリックした機器の Property ウィンドウを表示する。

- ◆ Property ウィンドウについて詳しくは、「Property ウィンドウ」(35 ページ) をご覧ください。

Device information (デバイス情報) : 右クリックした機器の情報を表示する。

- ◆ 詳しくは、「Device List ウィンドウに登録された機器の種類と IP アドレスを確認するには」(24 ページ) をご覧ください。

Add to Status Viewer (Status Viewer タブに追加) :

右クリックしたレシーバーチャンネルをメインウィンドウの Status Viewer タブに追加する。

デジタルワイヤレスレシーバーを右クリックした場合は、そのデジタルワイヤレスレシーバーのレシーバーチャンネルが Status Viewer タブに追加されます。

ポータブルベースユニットを右クリックした場合は、配下に登録されているすべてのポータブルレシーバーのレシーバーチャンネルが Status Viewer タブに追加されます。

Connect (切断デバイスとの再接続) : ワイヤレススタジオとの通信が途切れてしまったデジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットおよび RMU-01 との再接続を行います。

Save single setting (個別設定の保存) : 右クリックした機器の設定をファイルに保存します。

- ◆ 詳しくは、「機器の個別設定をファイルに保存するには」(21 ページ) をご覧ください。

Load single setting (個別設定の流し込み) : 右クリックした機器に対して、ファイルに保存された設定を流し込みます。

- ◆ 詳しくは、「保存した個別設定ファイルを開いて設定値を反映させるには」(21 ページ) をご覧ください。

メインウィンドウ

メインウィンドウには、Status Viewer が表示されます。

Status Viewer とメーターアイコン

Status Viewer では、画面内に表示されるメーターアイコンによって、各レシーバーチャンネルの状態をモニターできます。各レシーバーチャンネルのメーターアイコンには、デジタルワイヤレスレシーバー本体の初期画面と同等の情報が表示されます。

Status Viewer は、ワイヤレススタジオ起動時の初期設定では、All tuners ページと Page-1 ～ Page-6 の計 7 ページが用意されています。表示するページは Status Viewer の上部にあるタブを使って切り換えることができます。

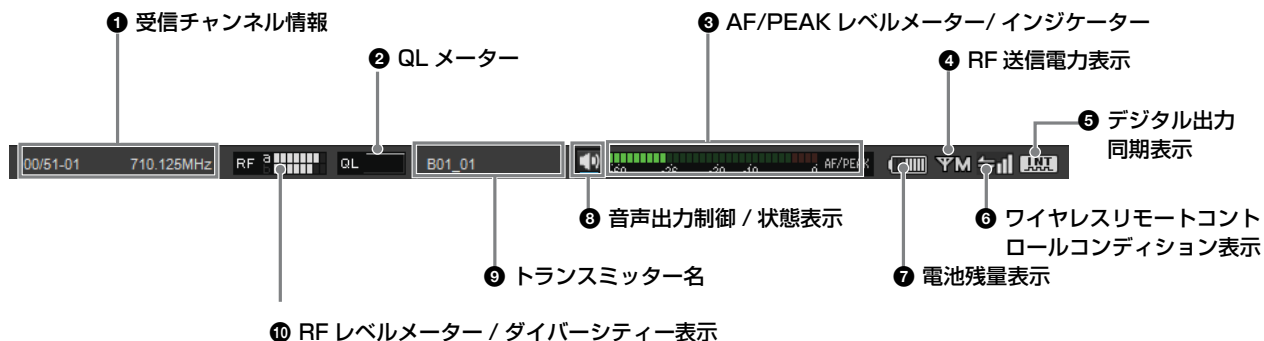
All tuners ページには、Device List にリストアップされているすべてのレシーバーチャンネルが自動的に登録され、全レシーバーチャンネルの状態をモニターすることができます。

Page-1 ～ Page-6 はカスタマイズ可能で、ページの追加や削除およびページ名の変更が行えます。各ページには最大 82 のレシーバーチャンネルを登録でき、モニターしたいレシーバーチャンネルを Device List から選んで自由に並べられます。運用上のトラブルが発生した、またはトラブルに至る可能性がある機器のメーターアイコンは、赤く表示されます。

Status Viewer タブ



メーターアイコン



① 受信チャンネル情報

受信チャンネルのグループ / チャンネル / 周波数を表示します。

一部の周波数には、チャンネル名の後ろに「*」がつきます。

◆ 詳しくは、「チャンネル呼称の表示について」(50 ページ)をご覧ください。

② QL (受信品質) メーター

受信データの品質をメーター表示します。

デジタルワイヤレスレシーバーとトランスミッターが離れて RF 信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合などに起こる受信信号の品質の悪化を監視することができます。

受信したデータの品質が低下すると、グラフの左側の「QL」が赤く点灯します。

③ AF/PEAK (オーディオ入力/ピーク) レベルメーター / インジケーター

トランスミッターに入力されるオーディオ信号のレベルを 32 段階で表示します。トランスミッターのオーディオ最大入力レベル設定を超えると、レベルメーターの右側の「AF/PEAK」が赤く点灯します。

④ RF 送信電力表示

デジタルワイヤレスレシーバーがトランスミッターから受信したメタデータにより、トランスミッターの送信電力設定を表示します。

⚡ H : 送信電力は 50 mW

⚡ M : 送信電力は 10 mW

⚡ L : 送信電力は 1 mW

⑤ デジタル出力同期表示

デジタルワイヤレスレシーバー本体の DIGITAL OUT 端子からの出力信号の同期状態を表示します。

INT : 出力信号は内部クロックに同期

EXT : 出力信号は WORD SYNC IN 端子から入力された信号に同期

⑥ ワイヤレスリモートコントロールコンディション表示

ペアリングされたトランスミッターとの通信状況を 4 段階で表示します。

📶 : 通信状況が良好

📶 : 通信状況がやや良好

📶 : 通信状況がやや良くない

📶 : 通信状況が良くない

📶 (赤く表示) : ペアリングされたトランスミッターと通信できない

で注意

デジタルワイヤレスレシーバーで RF REMOTE 機能を OFF にしている場合、このアイコンは表示されません。

⑦ 電池残量表示

デジタルワイヤレスレシーバーがトランスミッターから受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量を 8 段階で表示します。残量が少なくなると、電池のアイコンは赤く表示されます。

⑧ 音声出力制御 / 状態表示

レシーバーチャンネルのオーディオ出力の状態を表示します。また、アイコンをクリックするごとにオーディオ出力の状態が切り替わります。

🔊 : オーディオ出力中。アイコンをクリックするとオーディオ出力がミュートされます。

🔊 : オーディオ出力をミュート中。アイコンをクリックするとオーディオ出力のミュートが解除されます。

で注意

この設定を変更できるのは、Status Viewer setting ウィンドウの Individual muting/unmuting にチェックが入っている場合のみです。

◆ 詳しくは、「Status Viewer setting ウィンドウ」(48 ページ)をご覧ください。

⑨ トランスミッター名

デジタルワイヤレスレシーバーがトランスミッターから受信したメタデータにより、トランスミッター名を表示します。

⑩ RF (電波) レベルメーター / ダイバーシティ表示

電波入力レベルを 8 段階で表示します。入力レベルによって、点灯するゲージの数が変わります。

ダイバーシティの選択結果 (a または b) がレベルメーターの左側に表示されます。

レベルが低下すると、レベルメーターの左側の「RF」が赤く点灯します。

また、RF 入力レベルが高いと「RF」は黄色く点灯します。等間隔でチャンネルを設定するようなデジタル多チャンネル運用時には、「RF」が黄色く点灯しないように受信機、アンテナの設定を調整することをおすすめします。

Status Viewer のページを操作する

Status Viewer では、ページの追加や削除、およびページ名の変更が行えます。

ご注意

- 同じページ名を複数のページに重複して付けることはできません。
- ページ名に使用できる文字は、半角英数字のみです。
- 一度削除したページは元に戻すことができません。削除する際は、よく確認したうえで行ってください。
- All tuners ページの名前を変更したり、削除することはありません。

Status Viewer のページを追加するには

Status Viewer 上部のタブの右端にある「+」をクリックします。または、タブ上で右クリックしてコンテキストメニューを表示し、Add a new page を選択します。表示されたダイアログボックス上でページ名を入力し、OK をクリックすると、新しいページが追加されます。

Status Viewer のページ名を変更するには

Status Viewer 上部のタブをクリックして、ページ名を変更したいページを表示します。タブ上で右クリックしてコンテキストメニューを表示し、Change name of “ページ名” を選択します。表示されたダイアログボックス上で、新しいページ名を入力し、OK をクリックすると、ページ名が変更されます。

Status Viewer のページを削除するには

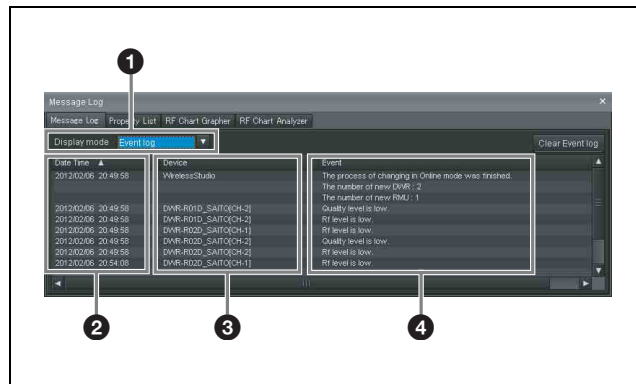
Status Viewer 上部のタブをクリックして、削除したいページを表示します。タブ上で右クリックしてコンテキストメニューを表示し、Delete “ページ名” を選択すると、ページが削除されます。

サブウィンドウ

サブウィンドウは、Message Log タブ、Property List タブ、RF Chart Grapher タブ、RF Chart Analyzer タブで構成されています。

Message Log タブ

Message Log タブは、警告メッセージやエラーメッセージをリスト表示します。2つの表示モードがあり、モードを切り換えることで用途に合った内容を表示させることができます。



① Display mode

メッセージログの表示を切り換えることができます。

Event log：運用開始時からの警告メッセージ、エラーメッセージ、およびその他のイベントメッセージをリスト表示するモードです。表示されたメッセージは、ログファイルとして記録されます。ログの記録は、オンラインモードになった時点から開始され、csv 形式で自動保存されます。

保存されたログを確認する際は、スタート>マイドキュメント> Wireless Studio フォルダー内にあるログファイルをテキストエディターなどで開いてください。

Unsolved problems：現在発生している警告、エラーをリスト表示するモードです。

② Date Time

警告、エラーおよびイベントが発生した日時を表示します。

③ Device

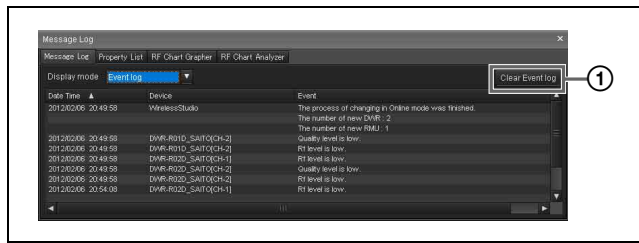
警告、エラーおよびイベントが発生した機器とチャンネルを表示します。

④ Event

各メッセージの内容を表示します。

各表示モード固有の機能は以下のとおりです。

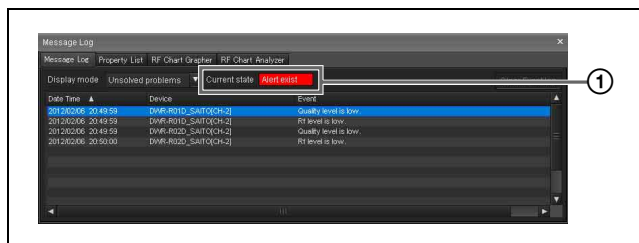
Event log モード



① Clear Event log

現在表示されている警告メッセージ、エラーメッセージ、その他のイベントメッセージを削除します。

Unsolved problems モード



① Current state

警告メッセージ、エラーメッセージの有無をリアルタイムで表示します。

Alert exist : 現在、警告メッセージ、エラーメッセージが 1 件以上ある。

No problem : 現在、警告メッセージ、エラーメッセージが 1 件もない。

エラーメッセージについて

表示されるメッセージは次のとおりです。

メッセージ	意味
Word sync is lost synchronization.	WORD SYNC IN 端子からの同期信号に、オーディオ出力が同期できていない。
PLL is out of order.	PLL の故障
Cooling fan is out of order.	冷却ファンの故障
Left channel of headphone output is over load.	ヘッドフォン出力の過負荷
Right channel of headphone output is over load.	
Both channels of headphone output are over load.	
ANT DC OUT terminal is over current.	ANTENNA a/b IN 端子に過電流が流れた。
ANT-a DC OUT terminal is over current.	ANTENNA a IN 端子に過電流が流れました。

メッセージ	意味
ANT-b DC OUT terminal is over current.	ANTENNA b IN 端子に過電流が流れました。
Transmitter's battery level is low.	トランスミッターの電池残量低下
Receiver cannot decrypt the encrypted signal.	デジタルワイヤレスレシーバーとトランスミッターの秘匿通信設定が合っていない。
RF level is excessive.	受信電波のレベルが過大
RF level is low.	受信電波のレベル低下
Quality level is low.	受信したオーディオデータの品質低下
Audio signal is reached clipping level.	トランスミッターへのオーディオ入力レベルが過大。
Communication time-out occurred.	通信タイムアウトがリトライ回数を超過して発生した。
CPU EEPROM error occurred.	CPU 用 EEPROM にエラーが発生した。
RF EEPROM error occurred.	RF 回路用 EEPROM にエラーが発生した。
Receiver's codec mode is mismatched with Transmitter's codec mode.	送信機と受信機のコーデックモードが合っていない。

その他のイベントメッセージについて

表示されるメッセージは次のとおりです。

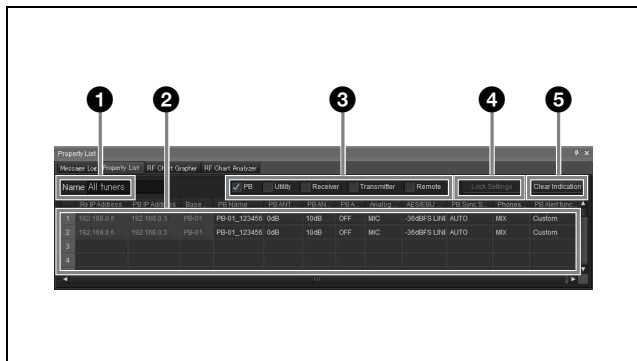
メッセージ	意味
Communication was enabled.	通信タイムアウトから復帰した。
The process of loading settings was finished.	Load settings が完了した。
The process of loading settings was failed.	Load settings が失敗した。
The process of changing in Online mode was finished.	オンラインモードへの遷移が完了した。
The process of changing in Online mode was failed.	オンラインモードへの遷移が失敗した。
The process of changing in Offline mode was finished.	オフラインモードへの遷移が完了した。
The process of searching devices was finished.	Search 処理が完了した。
The number of new PB: XX	XX 台の PB を新規に検出した。
The number of new DWR: XX	XX 台の DWR を新規に検出した。
The number of new RMU: XX	XX 台の RMU を新規に検出した。

Property List タブ

Status Viewer 上に表示されているレシーバーチャンネルの設定値を一覧表示します。Status Viewer の表示ページを切

り換えると、それに連動して、Property List タブの表示も更新されます。

Property List タブでは、リスト内のセルを選択することで設定値を変更できます。複数のセルを選択すれば、複数のレシーバーチャンネルの設定値をまとめて変更することもできます。



① Name (名前) 欄

現在 Status Viewer に表示されているページ名を表示します。

② 設定値一覧

Status Viewer に表示されている機器の設定値を一覧表示します。

リスト内のセルを選択することで設定値を変更できます。各セルをクリックすると選択肢が表示されるので、クリックして設定値を選択すると、レシーバーやトランスミッターに設定値が反映されます。

ワイヤレスリモートコントロールの電波状態が悪い場合など、設定値の反映に失敗したときには、該当するレシーバーチャンネルのセルが黄色で表示されます。その場合は再度、設定の変更を行ってください。設定値の反映に成功すると、黄色から通常の表示に戻ります。また、Clear Indication ボタンをクリックして、設定値の反映に失敗したことを示す黄色の表示をクリアすることもできます。なお、以下のいずれかの操作を行うことで複数のセルを選択することができます。複数のセルを選択している場合は、選択したレシーバーチャンネルの設定値を一括で変更することができます。

- セル上をドラッグする
- Ctrl キーを押しながら、選択したいセルを一つずつクリックする
- Shift キーを押しながら、離れた2つのセルをクリックする

③ 設定項目表示選択チェックボックス

カテゴリーごとに設定項目の表示、非表示を選択できます。

- ◆ Property ウィンドウについて詳しくは、「Property ウィンドウ」(35 ページ) をご覧ください。

PB : チェックを入れると、Property ウィンドウの PB configuration の設定項目が表示されます。

Utility : チェックを入れると、Property ウィンドウの Utility タブの設定項目が表示されます。

Receiver : チェックを入れると、Property ウィンドウのチャンネル 1/2 タブのうち、Receiver メニューの設定項目が表示されます。

Transmitter : チェックを入れると、Property ウィンドウのチャンネル 1/2 タブのうち、Transmitter メニューの設定項目が表示されます。

Remote : チェックを入れると、Property ウィンドウのチャンネル 1/2 タブのうち、Remote メニューの設定項目が表示されます。

④ Unlock Settings/Lock Settings ボタン

Setting lock 機能によって設定を変更できない状態になっているときに、このボタンをクリックしてパスワードを入力すると、一時的に設定を変更できるようになります。再度このボタンをクリックすると、再び設定を変更できない状態になります。

- ◆ Setting lock 機能について詳しくは、「Setting lock ウィンドウ」(46 ページ) をご覧ください。

⑤ Clear Indication ボタン

デジタルワイヤレスレシーバーやトランスミッターに設定値を反映するのに失敗した場合の黄色の表示をクリアすることができます。

表示が不要になったときに使用します。

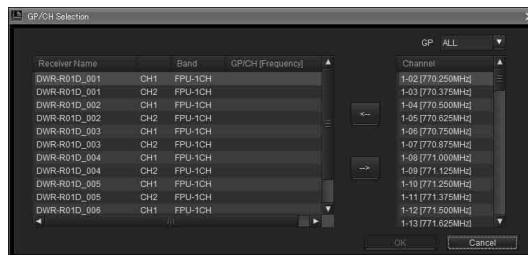
複数のレシーバーチャンネルの設定をまとめて変更するには

- 1 Property List タブで、複数のレシーバーチャンネルの GP/CH の項目を選択する。

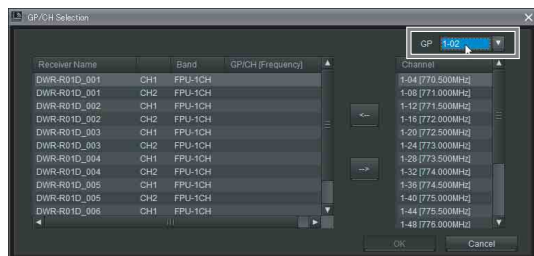
セルに「...」が表示されます。

- 2 「...」をクリックする。

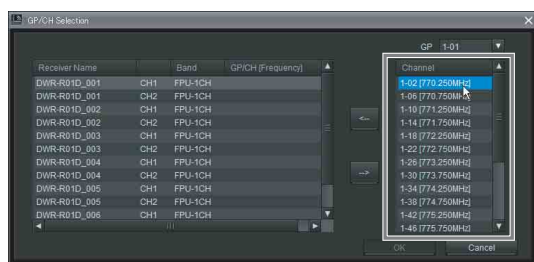
GP/CH Selection ダイアログボックスが表示されます。



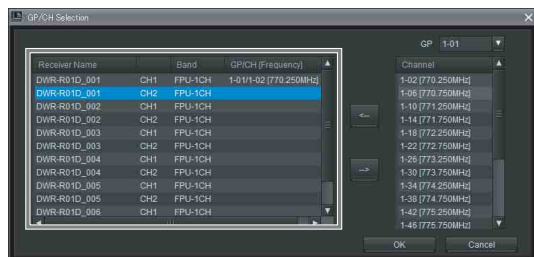
- 3 GP/CH Selection ダイアログボックス右側上部にある GP から周波数グループを選択する。



選択した周波数グループに属する周波数チャンネルの一覧が Channel 欄に表示されます。



- 4 GP/CH Selection ダイアログボックス左側のレシーバーチャンネル一覧から、設定を変更したいレシーバーチャンネルを選択する。



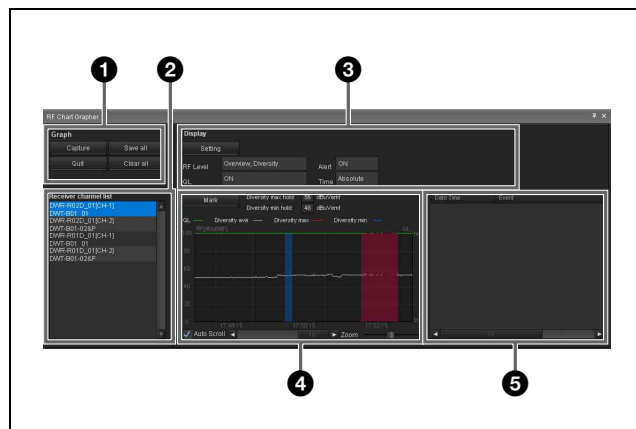
- 5 選択したレシーバーチャンネルに割り当てたい周波数チャンネルをチャンネル欄から選択し、「<-」をクリックする。

レシーバーチャンネルにグループ、チャンネルの設定が割り当てられます。
グループまたはチャンネルの割り当てを解除したい場合は、「->」をクリックしてください。

- 6 4～5の手順を繰り返してほかのレシーバーチャンネルにも周波数チャンネルを設定し、「OK」をクリックする。

変更内容が適用されます。

ができます。これにより、電波環境とアラート内容の因果関係を明らかにできます。



① Graph 項目

Capture : Receiver channel list に表示されているすべてのレシーバーチャンネルの、RF レベルと QL の取得、およびグラフ表示を開始します。

Quit : Receiver channel list に表示されているすべてのレシーバーチャンネルの、RF レベルと QL の取得、およびグラフ表示を終了します。

Clear all : Receiver channel list に表示されているすべてのレシーバーチャンネルの、取得された RF レベルと QL を消去し、グラフ表示をクリアします。

Save all : Receiver channel list に表示されているすべてのレシーバーチャンネルの、取得された RF レベルと QL をファイルに保存します。

② Receiver channel list

レシーバーチャンネルがリスト表示されます。

③ Display 項目

RF Level : RF レベルの表示モードを示します。

Alert : アラート情報の表示状態を示します。

QL : QL 情報の表示状態を示します。

Time : 時間情報の表示モードを示します。

Setting : このボタンをクリックすると Display Setting 画面が起動します。Display Setting 画面では、RF Level、Alert、QL、Time の表示方法を設定します。

◆ 詳しくは、「Display Setting」(32 ページ)をご覧ください。

④ グラフ表示エリア

Receiver channel list で選択している電波環境のモニタリング結果がグラフ表示されます。

Mark : グラフ内にメモを追加することができます。

◆ 詳しくは、「Mark 機能について」(32 ページ)をご覧ください。

RF Chart Grapher タブ

ワイヤレススタジオでは、RF Chart Grapher を使用して、運用中の電波環境と発生したアラート情報を記録すること

Diversity max hold：グラフに表示されている RF データのうち、Diversity の最大値を表示します。

Diversity min hold：グラフに表示されている RF データのうち、Diversity の最小値を表示します。

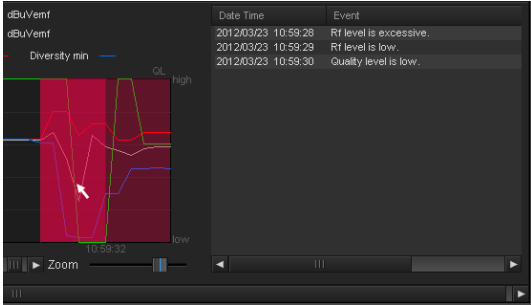
Auto Scroll：ここにチェックすると、常に最新値が表示されるように、グラフが自動的にスクロールします。

Zoom：グラフを拡大または縮小します。

スクロールバー：グラフの時間軸を移動させます。

5 アラート表示エリア

電波環境のモニタリング時に電波環境に問題が発生すると、グラフ表示エリアの一部が赤くなります。これをクリックすると、アラート表示エリアに、その期間にどのような問題が発生したかが表示されます。



RF Chart Grapher で表示されるメッセージは次のとおりです。

メッセージ	意味
Rf level is excessive.	受信電波のレベルが過大
Rf level is low.	受信電波のレベル低下
Quality level is low.	受信したオーディオデータの品質低下
Communication time-out occurred.	通信タイムアウトがリトライ回数を超えて発生した。
The process of searching devices was executed.	Search 処理が完了した。
WirelessStudio was not able to acquire data before updating graph.	グラフの更新周期内に、RF データおよび QL データが取得できなかった。 ご注意 RF Chart Grapher では、データを毎秒更新していますが、PC の負荷が高い場合やネットワーク内の通信負荷が高い場合にはデータを取得できないことがあります。

Display Setting

RF レベルは高すぎても低すぎても音声断につながる可能性があるため、適正なレベルを維持する必要があります。RF Chart Grapher では、RF レベルが適正なレベルに保たれているかを監視するために、RF レベルに関する表示を切り換えることができます。

また、アラート情報、QL 情報、および時間情報のグラフへの表示方法を設定できます。



RF Level

RF レベルのモニタリング方法を選択します。

Overview：Diversity で選択した RF レベルをモニタリングします。RF レベルが過大であること、および RF レベルが低下していることの両方をモニタリングできる表示モードです。「ave level」、「max level」、「min level」にチェックを入れるかどうかで、モニタリングしたい内容を設定できます。

Detail：アンテナごとの RF レベルをモニタリングします。Overview よりも詳細に RF レベルをモニタリングできます。「Individual max」は、RF レベルが過大なことをモニタリングするための表示モードです。「Individual min」は、RF レベルが低下していることをモニタリングするための表示モードです。どちらのモードでも、「a-branch」、「b-branch」、「diversity」にチェックを入れるかどうかで、モニタリングしたい内容を設定できます。

QL

グラフ表示エリアへの QL 情報の表示、非表示を切り換えます。

Alert

グラフ表示エリア、およびアラート表示エリアへのアラート情報の表示、非表示を切り換えます。

Time

グラフ表示エリアへの時間軸の表示モードを選択します。

Absolute：時刻で表示します。

Relative：表示開始からの経過時間で表示します。

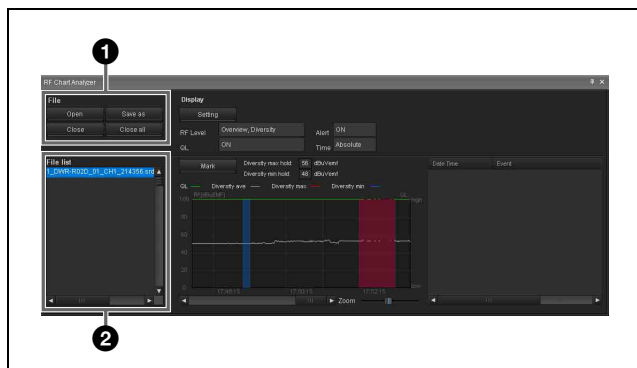
Mark 機能について

RF Chart Grapher では、電波環境のモニタリング時に発生したアラートを表示するだけでなく、グラフ内に任意でメ

モを追加することができます。Mark 機能によって追加されたメモは、青い印でグラフ上に表示されます。マークした箇所にマウスカーソルを合わせると、その内容がツールチップで表示されます。また、マークは、マウスでドラッグすることで移動できます。

RF Chart Analyzer タブ

RF Chart Analyzer タブでは、RF Chart Grapher を使用して記録したファイルの内容を確認することができます。これにより、電波環境のモニタリング結果の解析ができます。また、Mark 機能を使用してモニタリング結果マークを追加することができます。



① File 項目

Open : ファイルを File list に登録します。File list に登録できるのは、RF Chart Grapher で作成したファイルです。
Save as : File list で選択しているファイルの情報を保存します。

Close : File list で選択しているファイルを File list から削除します。

Close all : File list に登録されているすべてのファイルを File list から削除します。

② File list

読み出したファイルがリスト表示されます。

ご注意

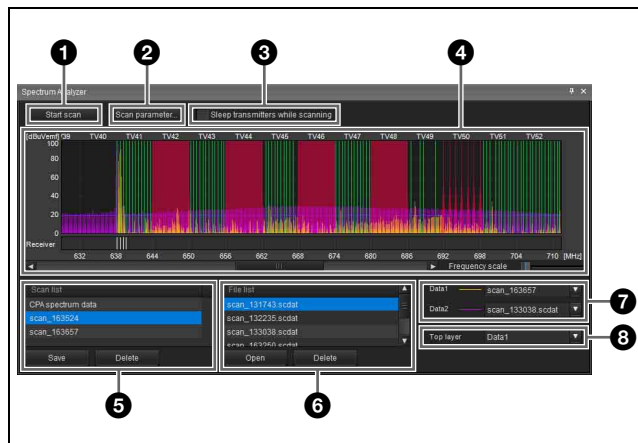
そのほかの項目は、RF Chart Grapher タブと同じ機能です。

◆ 詳しくは「RF Chart Grapher タブ」(31 ページ)をご覧ください。

Spectrum Analyzer タブ

Spectrum Analyzer タブでは、デジタルワイヤレスレシーバーを使用して、指定した周波数帯のスペクトルスキャンをすることができます。これにより、使用中の周波数帯の妨害の有無を視覚的に確認できます。

また、あらかじめ Channel Plan Adviser で最適なグループ / チャンネルを設定しておく、Channel Plan Adviser で設定した内容が Spectrum Analyzer に反映されます。これにより、Channel Plan Adviser で推奨されたグループ / チャンネルに対しても妨害の有無を視覚的に確認できます。



① Start scan/Stop scan ボタン

Start scan ボタンをクリックすると、スキャンを開始し、ボタン名が Stop scan に変わります。Stop scan ボタンをクリックすると、スキャンを中止し、ボタン名が Start scan に変わります。

② Scan parameter... ボタン

Scan を行うデジタルワイヤレスレシーバーの選択や細かい設定を行います。

◆ 詳しくは、「Scan parameter ウィンドウ」(34 ページ)をご覧ください。

③ Sleep transmitters while scanning

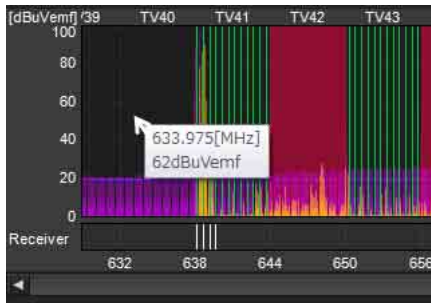
チェックをしておくことで、スキャン開始前に、リモートコントロールできる送信機を自動的にスリープモードにします。

④ 周波数スペクトラム表示エリア

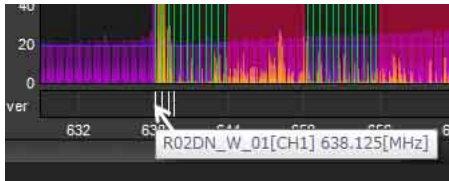
表示される内容および機能は、Channel Plan Adviser と同じです。

◆ 詳しくは「Channel Plan Adviser ウィンドウ」(40 ページ)をご覧ください。

ただし、Spectrum Analyzer 独自に以下の機能があります。グラフ内にマウスカーソルを合わせると周波数と電界強度が表示されます。



Receiver エリアには、デジタルワイヤレスレシーバーに設定されている周波数が白線で表示されます。また、白線にマウスカーソルを合わせると、レシーバー名、チャンネル番号、周波数が表示されます。



⑤ Scan list 項目

スキャンが完了すると、スキャン結果がリストに表示されます。

Save ボタン：Scan list 内で選択しているスキャン結果をファイルに保存します。

Delete ボタン：Scan list 内で選択しているスキャン結果をリスト内から削除します。

⑥ File list 項目

スキャン結果ファイルを開くと、ファイルに記録されているスキャン結果がリストに追加されます。

Open ボタン：スキャン結果ファイルを選択するダイアログを表示します。ここで選択したスキャン結果ファイルに記録されているスキャン結果が File list に追加されます。

Delete ボタン：File list 内で選択しているスキャン結果をリスト内から削除します。

⑦ Data 項目

周波数スペクトラム表示エリアに表示するスキャン結果を Data1、Data2 それぞれ選択します。

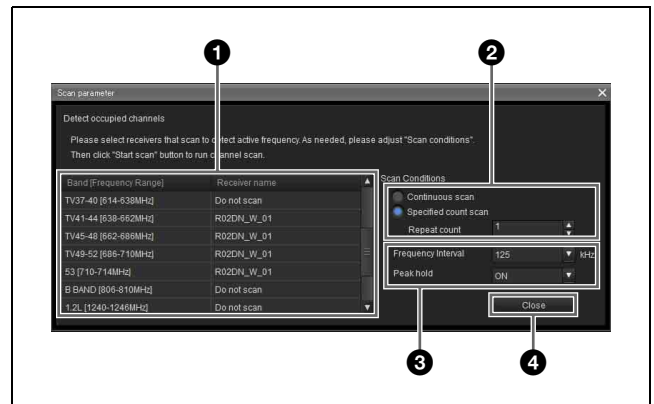
選択できるスキャン結果は、new spectrum、Scan list にあるスキャン結果、File list にあるスキャン結果、Do not display のいずれかです。new spectrum を選択した場合は最新のスキャン結果が表示され、Do not display を選択した場合はスキャン結果が表示されません。

⑧ Top layer

グラフに表示するスキャン結果のうち、最前面に表示させたいスキャン結果を選択します。

Scan parameter ウィンドウ

Spectrum Analyzer の Scan parameter... ボタンをクリックすると表示されます。



① スキャン対象の受信機選択

どのデジタルワイヤレスレシーバーでスキャンを行うかを、周波数帯域ごとに設定できます。Do not scan を選択している周波数帯域ではスキャンが行われません。

② スキャン回数の指定

Continuous scan：スキャン開始後、Stop scan ボタンをクリックするまで、スキャンを続けます。

Specified count scan：スキャン開始後、Repeat count で指定した回数だけスキャンが行われます。

③ その他設定

Frequency Interval：スキャンする間隔を 125 kHz 間隔と 25 kHz 間隔から選択できます。

Peak hold

各周波数におけるスキャン結果の値をホールドして表示するかどうかを選択します。

ON：一連のスキャン（Continuous scan 時、および Specified count scan で Repeat count を 2 以上に設定時）のうち、最大の RF レベルをグラフに表示します。

OFF：スキャンするごと（Continuous scan 時、および Specified count scan で Repeat count を 2 以上に設定時）に、最新の RF レベルをグラフに表示します。

④ Close ボタン

Scan parameter ウィンドウを閉じます。

設定ウィンドウ

ワイヤレススタジオには、以下の設定用ウィンドウがあります。

- Property ウィンドウ
- Channel Plan Adviser ウィンドウ
- Omit IP address list ウィンドウ
- Setting lock ウィンドウ
- Receiver CH Label setting ウィンドウ
- GP/CH display setting ウィンドウ
- Status Viewer setting ウィンドウ
- Other setting ウィンドウ
- Startup setting ウィンドウ
- Region setting ウィンドウ

Property ウィンドウ

デジタルワイヤレスレシーバー、ポータブルベースユニットや、デジタルワイヤレスレシーバーとペアリングされているトランスミッターの設定を確認したり、設定の変更を行うことができます。

デジタルワイヤレスレシーバーとポータブルベースユニットでは、表示される Property ウィンドウの内容が異なります。

デジタルワイヤレスレシーバーの Property ウィンドウ



① Unlock Settings/Lock Settings ボタン

Setting lock 機能によって設定を変更できない状態になっているときに、このボタンをクリックしてパスワードを入力すると、一時的に設定を変更できるようになります。

Property ウィンドウを閉じるか、再度このボタンをクリックすると、再び設定を変更できない状態になります。

◆ Setting lock 機能について詳しくは、「Setting lock ウィンドウ」(46 ページ) をご覧ください。

② メーターアイコン

Status Viewer のメーターアイコンと同等の機能です。

③ プロパティタブ

Utility タブ、チャンネル 1/2 タブの 3 つのタブで構成されます。

◆ 各タブの項目について詳しくは、「Utility タブ」(35 ページ) および「チャンネル 1/2 タブ」(36 ページ) をご覧ください。

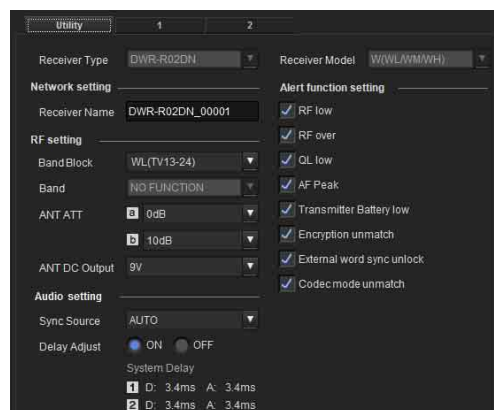
④ Close ボタン

Property ウィンドウを閉じます。

Utility タブ

デジタルワイヤレスレシーバーの UTILITY メニューに相当する設定項目が表示されます。

◆ 各項目について詳しくは、デジタルワイヤレスレシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。



Receiver Type : オンラインモードでは、デジタルワイヤレスレシーバーから取得した機種情報が表示され、変更できません。オフラインモードでは、機種情報を変更できます。

Receiver Model : オンラインモードでは、デジタルワイヤレスレシーバーから取得した周波数帯が表示され、変更できません。オフラインモードでは、周波数帯の変更が可能です。実際の運用機器に合わせた周波数帯に設定します。

Receiver Name : デジタルワイヤレスレシーバーの名前を設定します。

Band Block : 使用する周波数帯域（最大で 72 MHz の範囲）を設定します。

ご注意

本機能は、DWR-R01D には対応していません。

Band：使用する周波数帯域を設定します。

ご注意

本機能は、DWR-R02DN には対応していません。

ANT ATT：デジタルワイヤレスレシーバーのアンテナ入力のアッテネーターを設定します。

ANT DC Output：デジタルワイヤレスレシーバーの ANTENNA a/b IN 端子に接続されたアンテナへの DC 電源供給設定を行います。

Sync Source：デジタルワイヤレスレシーバーの同期信号源を設定します。

Delay Adjust：レシーバーチャンネル 1 と 2 の間で音声の遅延時間に差がある場合、それを補正するかどうかを設定します。

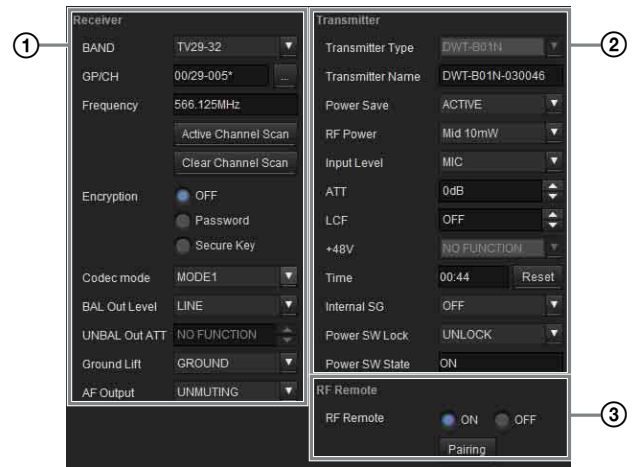
Alert function setting：デジタルワイヤレスレシーバーの ALERT インジケーターを点灯させる条件を設定します。以下の状態のうち、ALERT インジケーターを点灯させたい項目を選択します。

- RF low (RF レベルが低下)
- RF over (RF レベルが過大)
- QL low (QL が低下)
- AF Peak (音声出力レベルが過大)
- Transmitter Battery low (トランスミッターの電池残量が低下)
- Encryption unmatched (秘匿通信機能のパスワードまたは暗号鍵が不一致)
- External word sync unlock (外部からのワードクロック信号が同期していない)
- Codec mode unmatched (送信機と受信機のコーデックモードが不一致)

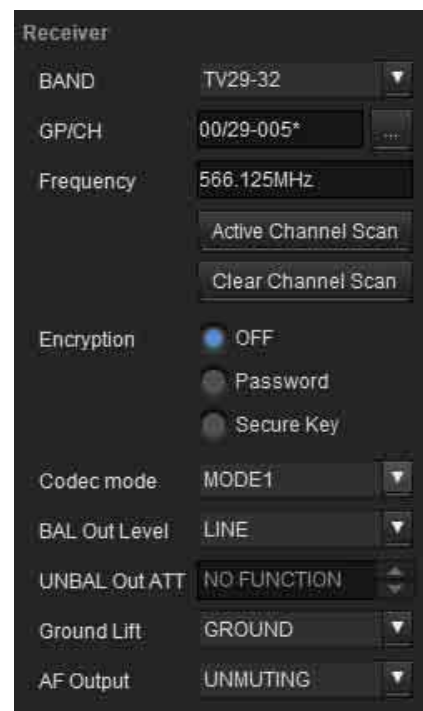
チャンネル 1/2 タブ

デジタルワイヤレスレシーバーの RECEIVER メニュー、TRANSMITTER メニュー、RF REMOTE メニューに相当する設定項目が表示されます。

- ◆ 各メニューの項目について詳しくは、デジタルワイヤレスレシーバーに付属の取扱説明書をご覧ください。



① Receiver メニュー



Band：使用する周波数帯域を設定します。

ご注意

本機能は、DWR-R01D には対応していません。

GP/CH：レシーバーチャンネルに設定されている周波数グループとチャンネルが表示されます。

一部の周波数には、チャンネル名の後ろに「*」がつきます。

- ◆ 詳しくは、「チャンネル呼称の表示について」(50 ページ)をご覧ください。

Frequency：レシーバーチャンネルに設定されている周波数が表示されます。

…**ボタン**：このボタンを押すと、Group/Channel Setting ダイアログボックスが表示されます。Group/Channel Setting ダイアログボックスでは、デジタルワイヤレスレシーバー

に設定されているチャンネルプランから受信周波数を選択できます。

Active Channel Scan ボタン：このボタンを押すと、デジタルワイヤレスレシーバーのアクティブチャンネルスキャン機能を実行します。検出されたチャンネルから受信するチャンネルを選択できます。

Clear Channel Scan ボタン：このボタンを押すと、デジタルワイヤレスレシーバーのクリアチャンネルスキャン機能を実行します。検出されたチャンネルから受信するチャンネルを選択できます。

Encryption：デジタルワイヤレスレシーバーの秘匿通信機能の設定を行います。

Codec mode：デジタルワイヤレスレシーバーのコーデックモードの設定を行います。

ご注意

本機能は、DWR-R01D には対応していません。

BAL Out Level：デジタルワイヤレスレシーバーのアナログ音声出力レベルを設定します。

UNBAL Out ATT：UNBALANCED OUTPUT 1/2 端子のアッテネーターの設定を行います。

ご注意

本機能は、DWR-R01D、DWR-R02DN には対応していません。

Ground Lift：BALANCED OUTPUT 1/2 端子の GROUND (XLR 1 ピン) と、シャーシ GROUND とを接続するかどうかを設定できます。「GROUND」を選択すると接続し、「LIFT」を選択すると接続しません。「LIFT」を選択し、シャーシ GROUND から GROUND (XLR 1 ピン) を浮かすことで、GROUND LOOP によるバズやハムなどのノイズを回避できます。

ご注意

本機能は、DWR-R01D には対応していません。

AF Output：レシーバーチャンネルのオーディオ出力の制御を行います。「MUTING」を選択すると、対応するレシーバーチャンネルのオーディオ出力がミュートされます。ミュート中は、AF/PEAK レベルメーター上で「Muting」表示が赤く点滅します。「UNMUTING」を選択すると、対応するレシーバーチャンネルのオーディオ出力のミュートが解除されます。

ご注意

本機能は、以下の条件で使用可能です。

DWR-R01D：バージョン 1.26 以上

DWR-R02DN：バージョン 1.01 以上

② Transmitter メニュー



Transmitter Type：オンラインモードでは、変更できません。オフラインモードでは、デジタルワイヤレスレシーバーとペアリングしているトランスミッターの機種に設定します。

Transmitter Name：トランスミッターの名前を設定します。

Power save：トランスミッターの省電力機能の設定を行います。

RF Power：トランスミッターの送信電力の設定を行います。

ご注意

トランスミッターの最大送信電力設定を変更した場合は、必ずペアリングを実行してください。ワイヤレスリモートコントロール機能で送信電力の設定を行えない可能性があります。

Input Level：トランスミッターの音声入力レベルを表示します。

ATT：トランスミッターのアッテネーターを設定します。Input Level が MIC に設定されている場合のみ、変更できます。

LCF：トランスミッターのローカットフィルター設定を行います。

+48V：トランスミッターの +48 V 電源設定を行います。

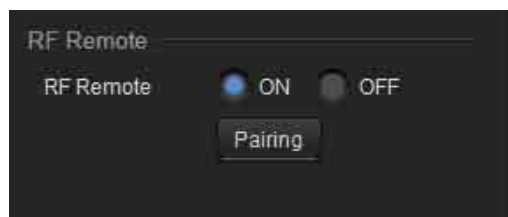
Time：トランスミッターの累積使用時間を表示します。Reset ボタンをクリックすることで、累積使用時間をクリアできます。

Internal SG：トランスミッターで内蔵信号を発生させるかどうかの設定を行います。

Power SW Lock：トランスミッターの POWER スイッチをロックするかどうかの設定を行います。

Power SW State : トランスミッターの POWER スイッチの状態を表示します。変更はできません。

③ RF Remote メニュー

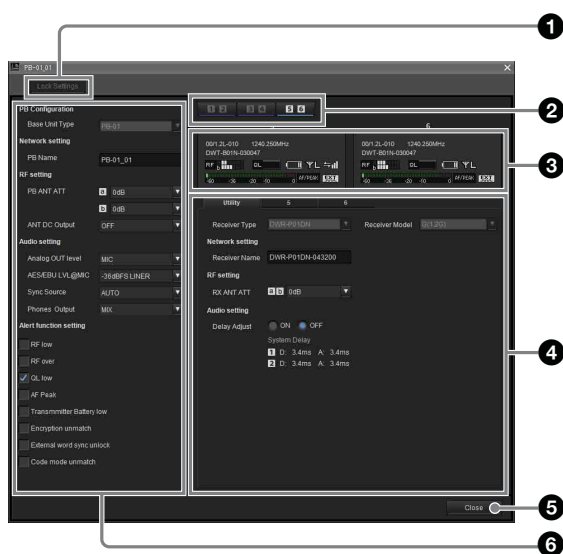


RF Remote : ワイヤレスリモートコントロール機能の設定を行います。

Pairing ボタン : このボタンを押すと、レシーバーチャンネルとトランスミッターとのペアリングを開始します。

◆ ペアリングのしかたについて詳しくは、「ペアリングを行う」(16 ページ) をご覧ください。

ポータブルベースユニットの Property ウィンドウ



① Unlock Settings/Lock Settings ボタン

Setting lock 機能によって設定を変更できない状態になっているときに、このボタンをクリックしてパスワードを入力すると、一時的に設定を変更できるようになります。Property ウィンドウを閉じるか、再度このボタンをクリックすると、再び設定を変更できない状態になります。

◆ Setting lock 機能について詳しくは、「Setting lock ウィンドウ」(46 ページ) をご覧ください。

② ポータブルレシーバー選択ボタン

ポータブルベースユニットに装着されているポータブルレシーバーを選択します。

選択したポータブルレシーバーの設定内容が、メーターアイコンとプロパティタブに表示されます。

③ メーターアイコン

Status Viewer のメーターアイコンと同等の機能です。

④ プロパティタブ

Utility タブ、チャンネル 1/2 (3/4、5/6) タブの 3 つのタブで構成されます。

◆ 各タブの項目について詳しくは、「Utility タブ」(39 ページ) および「チャンネル 1/2 (3/4、5/6) タブ」(39 ページ) をご覧ください。

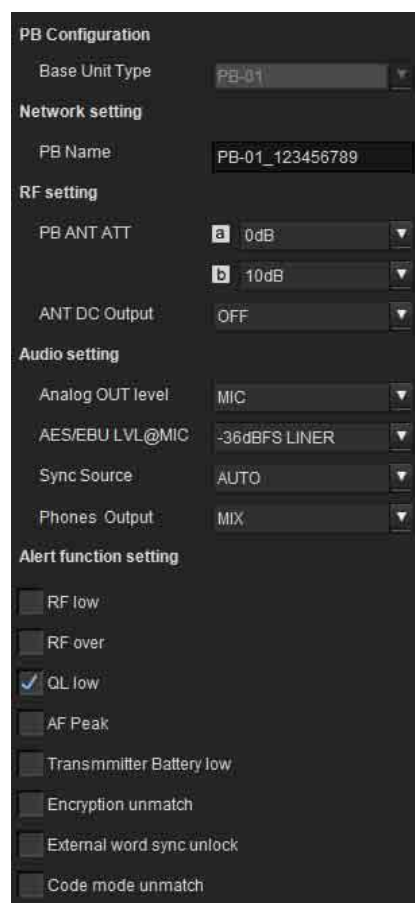
⑤ Close ボタン

Property ウィンドウを閉じます。

⑥ PB Configuration エリア

ポータブルベースユニットの CONFIGURATION メニューに相当する設定項目です。

◆ 各項目について詳しくは、ポータブルベースユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。



Base Unit Type : オンラインモードでは、ポータブルベースユニットから取得した機種情報が表示され、変更できません。オフラインモードでは、機種情報を変更できません。

PB Name：ポータブルベースユニットの名前を設定します。

PB ANT ATT：ポータブルベースユニットのアンテナ入力のアッテネーターを設定します。

ANT DC Output：ポータブルベースユニットの ANTENNA a/b IN 端子に接続されたアンテナへの DC 電源供給設定を行います。

Analog OUT level：ポータブルベースユニットのアナログ音声出力レベルを設定します。

AES/EBU LVL@MIC：ポータブルベースユニットの AES/EBU 出力基準レベルの設定をします。

Sync Source：ポータブルベースユニットの同期信号源を設定します。

Phones Output：ポータブルベースユニットの PHONES スイッチを押したときのヘッドホン出力を設定します。

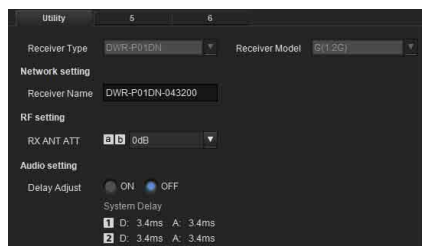
Alert function setting：ポータブルベースユニットの ALERT インジケーターを点灯させる条件を設定します。以下の状態のうち、ALERT インジケーターを点灯させたい項目を選択します。

- RF low (RF レベルが低下)
- RF over (RF レベルが過大)
- QL low (QL が低下)
- AF Peak (音声出力レベルが過大)
- Transmitter Battery low (トランスミッターの電池残量が低下)
- Encryption unmatched (秘匿通信機能のパスワードまたは暗号鍵が不一致)
- External word sync unlock (外部からのワードクロック信号が同期していない)
- Codec mode unmatched (送信機と受信機のコーデックモードが不一致)

Utility タブ

ポータブルベースユニットの UTILITY メニューに相当する設定項目が表示されます。

- ◆ 各項目について詳しくは、ポータブルベースユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。



Receiver Type：オンラインモードでは、ポータブルベースユニットから取得したポータブルレシーバーの機種情報が表示され、変更できません。オフラインモードでは、機種情報を変更できます。

Receiver Model：オンラインモードでは、ポータブルベースユニットから取得したポータブルレシーバーの周波

数帯が表示され、変更できません。オフラインモードでは、周波数帯の変更が可能です。実際の運用機器に合わせた周波数帯に設定します。

Receiver Name：ポータブルレシーバーの名前を設定します。

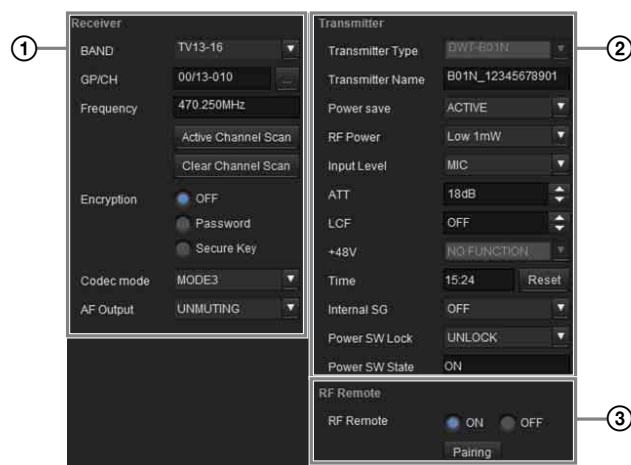
ANT ATT：ポータブルレシーバーのアンテナ入力のアッテネーターを設定します。

Delay Adjust：レシーバーチャンネル 1 と 2 の間で音声の遅延時間に差がある場合、それを補正するかどうかを設定します。

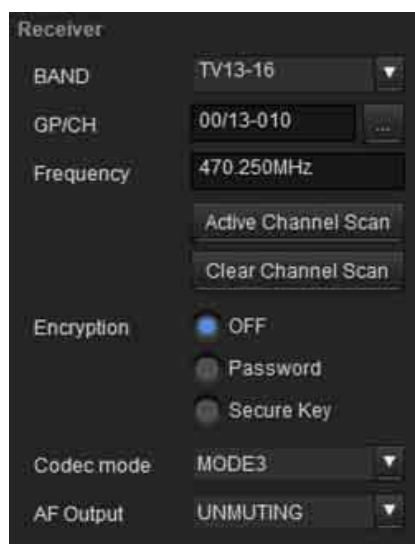
チャンネル 1/2 (3/4、5/6) タブ

ポータブルベースユニットの RECEIVER メニュー、TRANSMITTER メニュー、RF REMOTE メニューに相当する設定項目が表示されます。

- ◆ 各メニューの項目について詳しくは、ポータブルベースユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。



① Receiver メニュー



Band：使用する周波数帯域を設定します。

GP/CH：レシーバーチャンネルに設定されている周波数グループとチャンネルが表示されます。

一部の周波数には、チャンネル名の後ろに「*」がつきます。

◆ 詳しくは、「チャンネル呼称の表示について」（50 ページ）をご覧ください。

Frequency：レシーバーチャンネルに設定されている周波数が表示されます。

…**ボタン**：このボタンを押すと、Group/Channel Setting ダイアログボックスが表示されます。Group/Channel Setting ダイアログボックスでは、ポータブルベースユニットに設定されているチャンネルプランから受信周波数を選択できます。

Active Channel Scan ボタン：このボタンを押すと、ポータブルレシーバーのアクティブチャンネルスキャン機能を実行します。検出されたチャンネルから受信するチャンネルを選択できます。

Clear Channel Scan ボタン：このボタンを押すと、ポータブルレシーバーのクリアチャンネルスキャン機能を実行します。検出されたチャンネルから受信するチャンネルを選択できます。

Encryption：ポータブルレシーバーの秘匿通信機能の設定を行います。

Codec mode：ポータブルレシーバーのコーデックモードの設定を行います。

AF Output：レシーバーチャンネルのオーディオ出力の制御を行います。「MUTING」を選択すると、対応するレシーバーチャンネルのオーディオ出力がミュートされます。ミュート中は、オーディオメーター表示上で、Muting 表示が赤点減します。「UNMUTING」を選択すると、対応するレシーバーチャンネルのオーディオ出力のミュートが解除されます。

② Transmitter メニュー

デジタルワイヤレスレシーバーの Property ウィンドウと同じ内容です。

◆ 詳しくは「デジタルワイヤレスレシーバーの Property ウィンドウ」の「②Transmitter メニュー」（37 ページ）をご覧ください。

③ RF Remote メニュー

デジタルワイヤレスレシーバーの Property ウィンドウと同じ内容です。

◆ 詳しくは「デジタルワイヤレスレシーバーの Property ウィンドウ」の「③RF Remote メニュー」（38 ページ）をご覧ください。

Channel Plan Adviser ウィンドウ

電波環境に関する情報を入力したり、デジタルワイヤレスレシーバーを使ってチャンネルスキャンを行うことで、電波環境にあわせたチャンネルプランを選択することができます。

入力された電波環境に関する情報やチャンネルスキャンで検出された電波は、画面上部のスペクトラムグラフに表示されます。スペクトラムグラフで電波の混み具合を確認しながら、チャンネルプランの選択作業を行います。

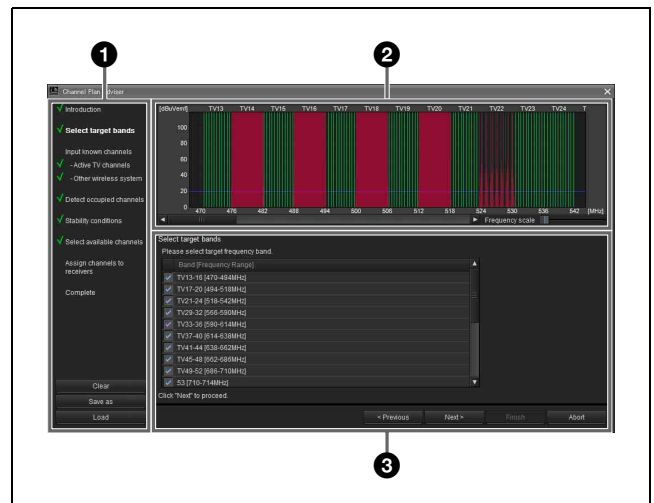
Channel Plan Adviser には、以下のモードが存在します。

Basic mode：デジタルワイヤレスレシーバーのチャンネルスキャン機能を使って、検出された妨害波を回避したチャンネルプランの選択を行います。チャンネルスキャン以外の情報の入力を省略した簡易的な選択方法です。

Advanced mode：Basic mode で行うチャンネルスキャンに加えて、事前に調べておいた様々な情報を入力して、チャンネルプランの選択を行います。以下の情報を入力できます。

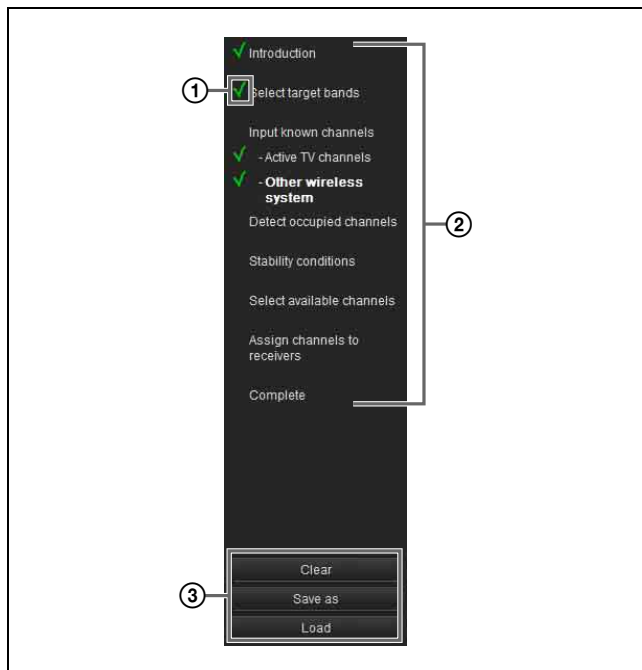
- TV 放送波による妨害波
- ほかのワイヤレス機器による妨害波
- チャンネルスキャンで検出された妨害波
- 各妨害波からどれくらい周波数間隔を空けてチャンネルプランを選択するか

◆ Basic mode を使ったチャンネルプランの選択について詳しくは、「チャンネルプランを選択する」（14 ページ）をご覧ください。



① 目次エリア

Channel Plan Adviser で行う作業手順の一覧表示や作業ファイルの保存・呼び出しを行います。



① 完了チェック

既に完了している作業手順には、チェックマークが表示されます。作業の進み具合や作業の漏れを確認できます。

② 作業項目

Channel Plan Adviser で行う作業手順の一覧です。

各作業手順へのショートカットにもなっていますので、項目をクリックすることで、目的の手順に進むことができます。

Basic mode では、一部の手順が省略されます。省略される手順は選択できません。

③ 作業ファイルの保存と呼び出し

Clear ボタンをクリックすると、Channel Plan Adviser に設定した内容が消去されます。また、Spectrum Analyzer に反映された内容も同時に消去されます。

Save as ボタンをクリックすると、ファイル保存のダイアログボックスが表示されます。

各作業手順で入力した情報をファイルに保存することができます。

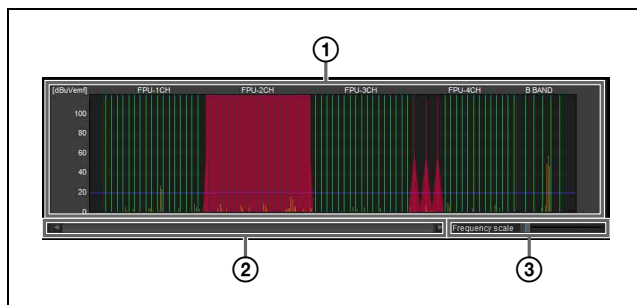
Load ボタンをクリックするとファイル呼び出しのダイアログボックスが表示されます。

以前保存したファイルの情報を元にチャンネルプランの選択作業を行うことができます。

◆ 作業ファイルについて詳しくは、「作業ファイルについて」（45 ページ）をご覧ください。

② 周波数スペクトラム表示エリア

各作業手順で入力された情報が周波数スペクトラムの形でグラフ化されます。



① 周波数スペクトラム

各作業手順で入力された情報がグラフ化されて表示されます。

TV 放送波、ほかのワイヤレス機器による妨害波は、赤で表示されます。

チャンネルスキャンで検出された妨害波は、黄で表示されます。

妨害波とみなすしきい値は、青の線で表示されます。

選択されたチャンネルプランのうち、利用可能なチャンネルは、緑で表示されます。また、妨害波などによって、利用できないチャンネルは、暗い緑で表示されます。

② 表示範囲変更スクロールバー

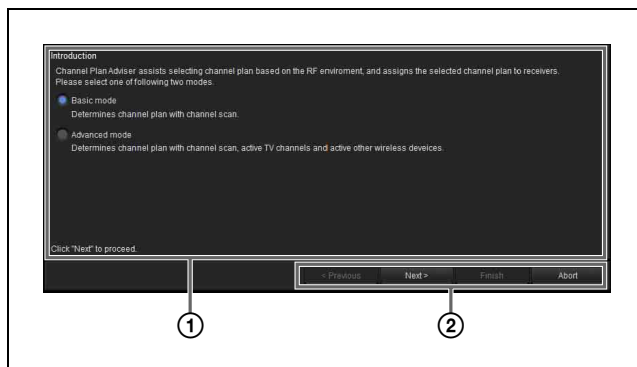
表示する周波数範囲を変更します。

③ 表示幅変更

表示する周波数の幅を変更します。

③ ウィザードエリア

ウィザードエリアに表示される手順に従って、チャンネルプランの選択に必要な情報を入力していきます。



① 情報入力エリア

このエリアに表示される内容に従って情報を入力します。

② 進行ボタン

Previous : 1 つ前の手順に戻ります。

Next : 次の手順に進みます。

Finish : すべての作業手順を完了し、Channel Plan Adviser を終了します。

Abort : 作業内容を放棄して、Channel Plan Adviser を終了します。

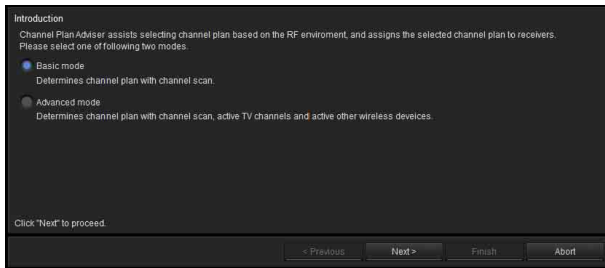
チャンネルプランの選択方法

ここでは、Advanced mode を使ったチャンネルプランの選択方法について説明します。

- ◆ Basic mode を使ったチャンネルプランの選択について詳しくは、「チャンネルプランを選択する」（14 ページ）をご覧ください。

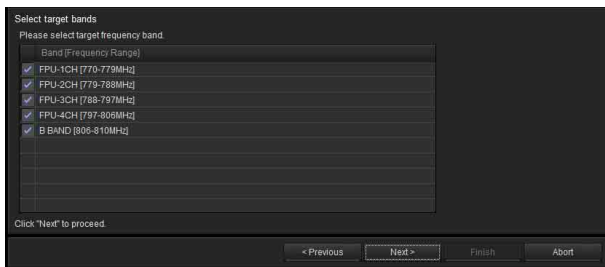
1 Advanced mode を選択し、「Next >」をクリックする。

この画面では Basic mode、Advanced mode のどちらのモードでチャンネルプランの選択を行うかを選びます。



2 対象とする周波数帯域を選択し、「Next >」をクリックする。

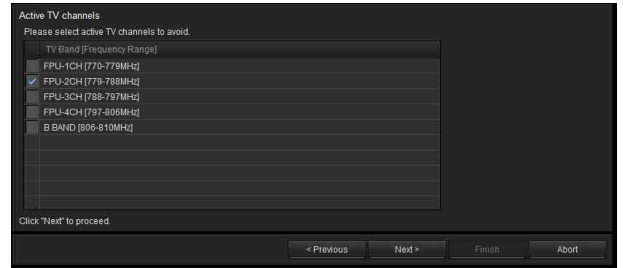
チャンネルプランを選択するにあたり、対象とする周波数帯域を選択します。



表示されるのは、デジタルワイヤレスレシーバーの BAND 設定で選択できる周波数帯域と同じです。以降の手順では、ここで選択した帯域のみでチャンネルプランの選択を行います。

3 TV Channel を指定し、「Next >」をクリックする。

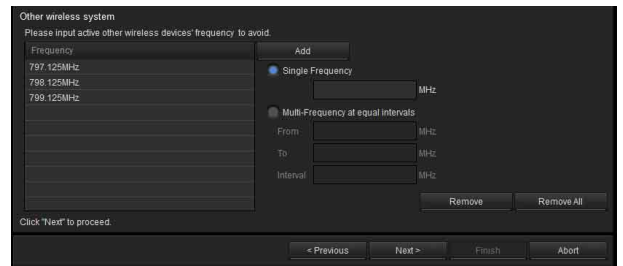
リストのチェックボックスにチェックを入れることで、TV Channel を指定します。指定された TV Channel は、周波数スペクトラム表示エリアにプロットされます。



ここで選択した TV 放送波は妨害波とみなされて、該当する周波数はチャンネルプラン選択時に候補から除外されます。

4 ほかのワイヤレス機器で使用されている周波数を指定し、「Next >」をクリックする。

同一エリアで使用されている、ほかのワイヤレス機器に割り当てられている周波数を指定します。



ここで指定された周波数は、妨害波とみなし、チャンネルプラン選択時に候補から除外されます。指定された周波数は、周波数スペクトラム表示エリアにプロットされます。

周波数を追加する

周波数（MHz 単位）を入力して、Add ボタンをクリックします。

以下の 2 つの方式で追加することができます。

Single Frequency : テキストボックスに入力された周波数が 1 つ追加されます。

Multi-Frequency at equal intervals : From に入力された周波数から、To に入力された周波数まで、Interval に入力された周波数間隔で追加されます。

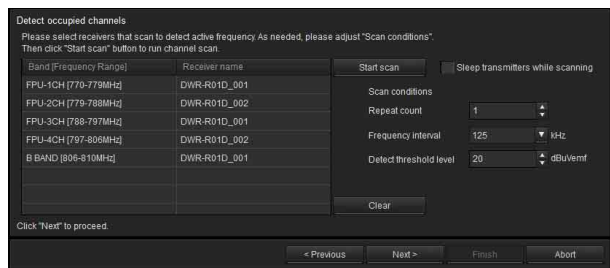
周波数を削除する

Remove : リストで選択された周波数を 1 つ削除します。

Remove All : リスト内の周波数をすべて削除します。

5 チャンネルスキャンを行い、「Next >」をクリックする。

デジタルワイヤレスレシーバーのチャンネルスキャン機能を使って、妨害波となりうる周波数を検出します。検出された周波数は、周波数スペクトラム表示エリアにプロットされます。



スキャンを行うデジタルワイヤレスレシーバーを指定する

周波数帯域に、スキャンを行うデジタルワイヤレスレシーバーを選択します。

デジタルワイヤレスレシーバーの代わりに「Do not scan」を選択すると、その周波数帯域についてはチャンネルスキャンを行いません。

スキャン実行時の条件を調整する

Repeat count：スキャンを何回繰り返すかを指定します。1～10回で指定できます。

Frequency Interval：周波数の間隔を指定します。125 kHz 間隔か、25 kHz 間隔かを指定できます。

Detect threshold Level：妨害波とみなす RF レベルを指定します。5～30 dBuVemf の間で、1 dB ステップで指定できます。

で注意

日本国内向けのデジタルワイヤレスレシーバーをお使いの場合、25 kHz 間隔でのスキャンを行うことはできません。

スキャンを開始する

「Start scan」をクリックします。

スキャンの開始とともに、これまでのスキャン結果は消去され、スキャンが完了すると、新しいスキャン結果に更新されます。

Sleep transmitters while scanning にチェックしておくと、スキャン中はリモートコントロールできる送信機を自動的にスリープモードにします。

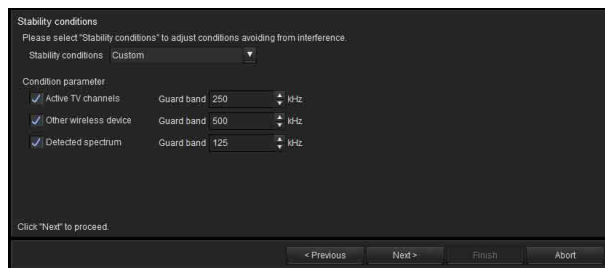
スキャン結果を消去する

「Clear」をクリックします。

これまでのスキャン結果は消去されます。

6 妨害波の回避条件を指定し、「Next >」をクリックする。

各種の妨害波との周波数間隔をどれくらい空けてチャンネルプランを選択するかを指定します。



Stability condition の値を選択して、条件を指定します。

プリセットされた条件を指定する

Stable、Standard、More Frequency の3種類のプリセットされた条件から選択します。

Stable：妨害波との周波数間隔を広く空けてチャンネルプランを選択します。より安定的な運用を狙った条件ですが、その分、選択できるチャンネル数が少なくなります。

Standard：標準的な周波数間隔でチャンネルプランを選択します。

More Frequency：妨害波との周波数間隔をあまり空けずにチャンネルプランを選択します。

条件をカスタマイズする

Custom を選択します。

各項目のチェックボックスにチェックを付けると、妨害波として扱い、チャンネルプラン選択時にその周波数を候補から除外します。

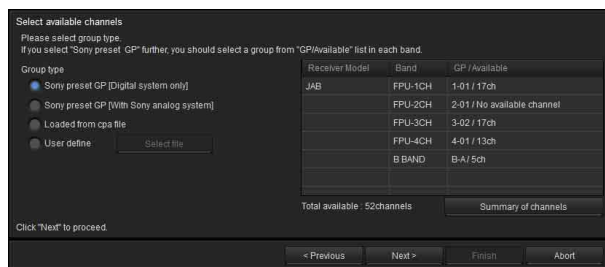
また、妨害波とみなす場合は、その上下にどの程度の周波数間隔を空けるかを指定します。

Active TV Channels：指定された TV 放送波を妨害波として扱い、回避します。

Other wireless device：ほかのワイヤレス機器を妨害波として扱い、回避します。

Detected spectrum：チャンネルスキャンによって検出された電波を妨害波として扱い、回避します。

7 チャンネルプランを選択する。



これまで入力してきた情報を元に、各周波数帯域のチャンネルプランを選択します。

チャンネルプランの種類を指定する

ご使用の機器構成に合わせて、Group type を選択します。

Sony preset GP [Digital system only]：ソニー製のデジタルワイヤレスシステムだけで運用する場合に選択します。

デジタルワイヤレスシステム向けのプリセットチャンネルプランから優先的に候補としてリストアップされます。

Sony preset GP [With Sony analog system]：ソニー製のアナログワイヤレスシステムと混在して運用する場合に選択します。

アナログワイヤレスシステムと共用して使用可能なプリセットチャンネルプランから候補を選択します。

Loaded from cpa file：作業ファイルを読み込み、その作業ファイルに保存されていたチャンネルプランを使用します。

◆ 作業ファイルについて詳しくは、「作業ファイルについて」（45 ページ）をご覧ください。

User define：「Select file」をクリックして、ユーザー定義の周波数リストを指定してください。

◆ ユーザー定義の周波数リストについて詳しくは、「ユーザー定義ファイルについて」（45 ページ）をご覧ください。

周波数帯域ごとにチャンネルプランを選択する

Group type で選択されたチャンネルプランに対して、妨害波による妨害を受ける可能性がある周波数を除いた、利用可能なチャンネル数が周波数帯域ごとに表示されます。

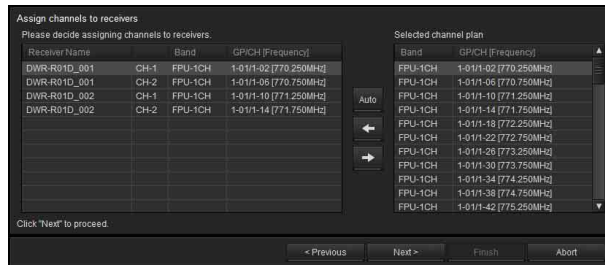
候補となるチャンネルプランが複数ある場合は、各周波数帯域で、どのチャンネルプランを使用するか選択してください。

現在の周波数リストを確認する

「Summary of channels」をクリックします。
各周波数帯域で選択されているチャンネルプランの利用可能な周波数一覧が表示されます。



8 選択したチャンネルプランをデジタルワイヤレスレシーバーに割り当てる。



自動的に割り当てる

「Auto」をクリックします。

チャンネルプランリストにある周波数が低いプランから順に、自動でデジタルワイヤレスレシーバーのレシーバーチャンネルへ周波数を割り当てます。

個別に割り当てる

レシーバーチャンネルのリストから対象のレシーバーチャンネルを選択し、チャンネルプランのリストから割り当てたい周波数を選択します。

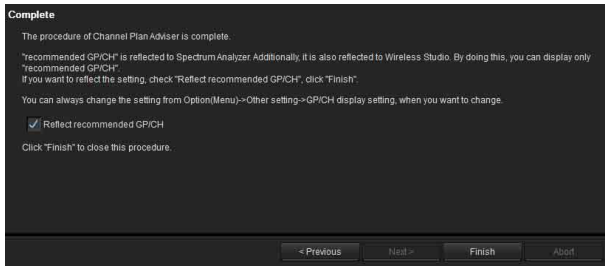
← ボタンをクリックすると、レシーバーチャンネルに周波数が割り当てられます。

割り当てを解除する

レシーバーチャンネルのリストから割り当てを解除したいレシーバーチャンネルを選択して、→ ボタンをクリックすると、割り当てが解除されます。

9 すべてのレシーバーチャンネルの割り当てが完了したら、「Next >」をクリックする。

割り当てられた周波数の設定が、デジタルワイヤレスレシーバーに送信されます。



- 10 必要に応じて Reflect recommended GP/CH のチェックの有無を変更してから、「Finish」をクリックする。

Channel Plan Adviser を終了します。

Reflect recommended GP/CH にチェックを入れた場合は、ワイヤレススタジオ上で選択できるグループ / チャンネルが Channel Plan Adviser が推奨するものだけになります。また、Channel Plan Adviser が推奨するグループ / チャンネルが、サブウィンドウの Spectrum Analyzer タブにも表示されます。

補足

Reflect recommended GP/CH の設定は、GP/CH display setting ウィンドウでいつでも変更できます。

◆ 詳しくは「GP/CH display setting ウィンドウ」（47 ページ）をご覧ください。

作業ファイルについて

Channel Plan Adviser では、各作業手順で入力した情報を作業ファイル（拡張子「cpa」）に保存したり、呼び出したりすることができます。

作業ファイルには、以下の内容が保存されます。

- 対象とする周波数帯域
（「チャンネルプランの選択方法」手順 2 で入力）
- TV Channel
（「チャンネルプランの選択方法」手順 3 で入力）
- ほかのワイヤレス機器で使用されている周波数
（「チャンネルプランの選択方法」手順 4 で入力）
- チャンネルスキャンの条件とスキャン結果
（「チャンネルプランの選択方法」手順 5 で入力）
- 妨害波の回避条件
（「チャンネルプランの選択方法」手順 6 で入力）
- 選択されたチャンネルプラン
（「チャンネルプランの選択方法」手順 7 で入力）

◆ 詳しくは、「チャンネルプランの選択方法」（42 ページ）をご覧ください。

ユーザー定義ファイルについて

ユーザー定義ファイル（拡張子「chplan」）に記述した周波数リストを使って、ユーザー独自のチャンネルプランを定義することができます。

ユーザー定義ファイルを Channel Plan Adviser 上に読み込み、スキャン結果などの電波環境に照らし合わせて利用可能な周波数を決定します。

ユーザー定義ファイルの作成方法

メモ帳などのテキストエディターを使って作成してください。また、拡張子を「chplan」としてください。

1 行に 1 周波数を記述します。

補足

「#」記号を入力した場合、その行の「#」記号より後ろの文字列は、コメントとして扱われます。

例：B 型の B-A グループと B-B グループをつなげた 10ch の同時運用プランと同じ構成にする場合

```
# User define Channel Plan
# B BAND / B-A + B-B Group
806.750 # B-A BA1
807.500 # B-A BA2
808.250 # B-A BA3
809.000 # B-A BA4
809.750 # B-A BA5
806.375 # B-B BB1
807.125 # B-B BB2
807.875 # B-B BB3
808.625 # B-B BB4
809.375 # B-B BB5
```

ご注意

利用可能な周波数は、デジタルワイヤレスレシーバーに付属の周波数リストに掲載されているもののみです。

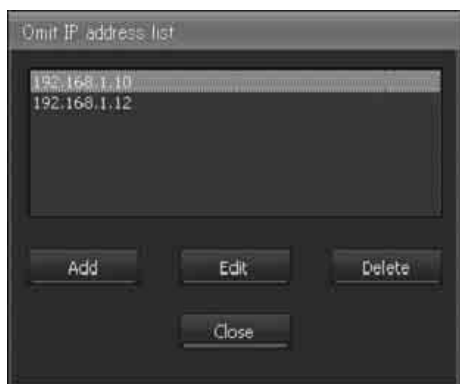
Omit IP address list ウィンドウ

このリストに IP アドレスを登録すると、自動検出の対象からはずされ、Device List ウィンドウに表示されなくなります。

同一サブネット上に複数のシステムを接続している場合に、ほかのシステムの機器を表示しないようにしたいときに使用します。

Device メニュー > Omit IP address list をクリックして表示します。

Omit IP address list コマンドは、オフラインモード時のみ使用できます。



IP アドレスを検出除外リストに加えるには

「Add」をクリックし、検出から除外したい IP アドレスを入力した後「Close」をクリックします。

リスト上の IP アドレスを変更するには

変更したい IP アドレスをクリックして選択し、「Edit」をクリックして IP アドレスを変更した後「Close」をクリックします。

リスト上の IP アドレスを削除するには

削除したい IP アドレスをクリックして選択し、「Delete」をクリックしてから「Close」をクリックします。

Setting lock ウィンドウ

ワイヤレススタジオからデジタルワイヤレスレシーバーやトランスミッターの設定を変更することを禁止できます。この機能を使うには、管理者パスワードを設定する必要があります。

設定変更を禁止しているときでも、Property ウィンドウおよび Property List タブのロック設定解除ボタンをクリックし、管理者パスワードを入力することで、一時的に設定変更をできる状態になります。



設定変更を禁止するには

- 1 Setting lock チェックボックスにチェックを入れる。

- 2 Administrator Password 欄および Confirm Password 欄に同じパスワードを入力する。

- 3 「OK」をクリックする。

設定変更の禁止を解除するには

- 1 Administrator Password 欄に設定したパスワードを入力する。

- 2 Setting lock チェックボックスのチェックをはずす。

- 3 「OK」をクリックする。

管理者パスワードを変更するには

- 1 Administrator Password 欄に設定したパスワードを入力する。

- 2 Administrator Password 欄および Confirm Password 欄に新しいパスワードを入力する。

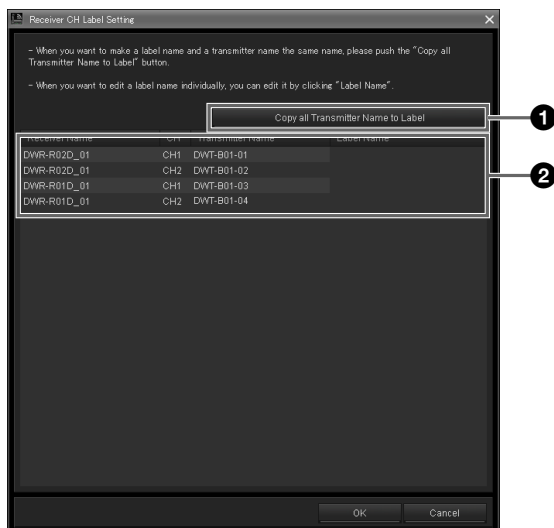
- 3 「OK」をクリックする。

Receiver CH Label setting ウィンドウ

Receiver CH Label setting ウィンドウでは、レシーバーチャンネルごとに任意のラベルを設定できます。これにより、トランスミッターの電波が受信できない状況でも、チャンネルの識別が容易になります。

補足

このウィンドウでは、Receiver Name および Transmitter Name の変更はできません。変更する場合は、Property List タブまたは Property ウィンドウで行ってください。



① Copy all Transmitter Name to Label

トランスミッターの名前を、該当するレシーバーチャンネルのラベル名にコピーします。

② 設定項目リスト

Receiver Name : デジタルワイヤレスレシーバーの名前を表示します。

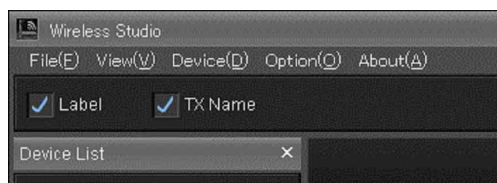
CH : デジタルワイヤレスレシーバーのチャンネル情報を表示します。

Transmitter Name : デジタルワイヤレスレシーバーと通信しているトランスミッターの名前を表示します。

Label Name : レシーバーチャンネルごとに任意の名前を設定することができます。名前を入力したら、Enter キーを押して確定します。

ラベル名とトランスミッター名の表示切り換えについて

ワイヤレススタジオのトップ画面で、設定したラベル名およびトランスミッター名の表示、非表示を切り換えることができます。



Label

ラベル名の表示、非表示を切り換えます。チェックを入れるとラベル名が表示され、チェックをはずすとラベル名が非表示になります。初期状態では非表示です。

ラベル名の表示、非表示は、以下の場所に適用されます。

- Device List
- Status Viewer
- Property ウィンドウ

- Property List タブ
- RF Chart Grapher タブ

TX Name

トランスミッター名の表示、非表示を切り換えます。

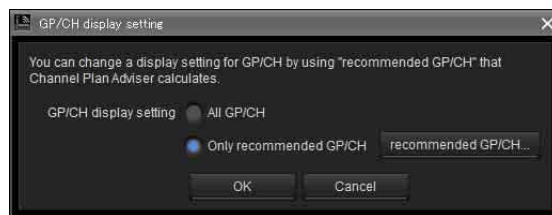
チェックを入れるとトランスミッター名が表示され、チェックをはずすとトランスミッター名が非表示になります。初期状態では表示されています。

トランスミッター名の表示、非表示は、以下の場所に適用されます。

- Device List
- Status Viewer
- RF Chart Grapher タブ

GP/CH display setting ウィンドウ

GP/CH display setting ウィンドウでは、ワイヤレススタジオのグループ / チャンネルの表示に関する設定ができます。



GP/CH display setting

All GP/CH : グループ / チャンネルの設定をする際に、すべてのグループ / チャンネルが候補として表示されます。工場出荷時は、All GP/CH に設定されています。

Only recommended GP/CH : グループ / チャンネルの設定をする際に、Channel Plan Adviser で計算された推奨グループ / チャンネルのみが候補として表示されます。

Channel Plan Adviser の最終画面で Reflect recommended GP/CH にチェックを入れて終了すると、Only recommended GP/CH に変更されます。

◆ 詳しくは「Channel Plan Adviser ウィンドウ」(40 ページ)をご覧ください。

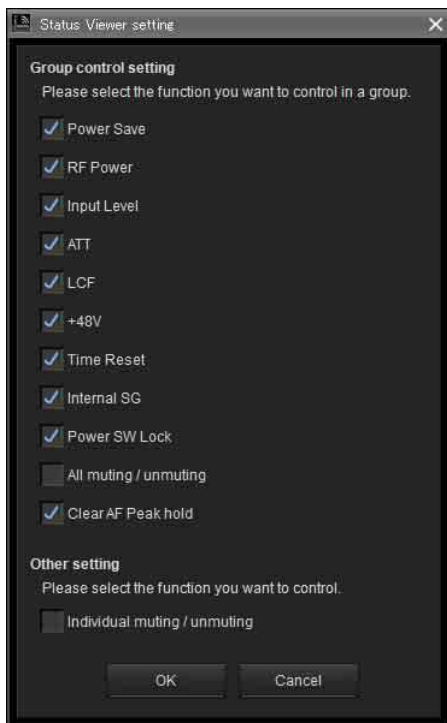
recommended GP/CH... ボタン

Channel Plan Adviser で計算された推奨グループ / チャンネルが別ウィンドウで表示されます。グループ / チャンネルの設定をする際には、ここに表示されているグループ / チャンネルのみが選択候補として表示されます。



Status Viewer setting ウィンドウ

Status Viewer setting ウィンドウでは、Status Viewer に表示されているレシーバーチャンネルのトランスミッター設定を一括変更するためのボタンや All muting、All unmuting、Clear AF Peak hold などのショートカットボタンの表示、非表示の設定ができます。



設定項目にチェックをつけて OK ボタンをクリックすると、チェックをつけた設定の一括変更用のボタンや All muting ボタン、All unmuting ボタン、Clear AF Peak hold ボタンが Status Viewer 上部に表示されます。

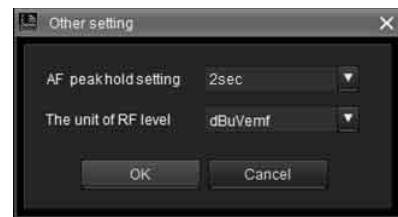


一括で変更したい設定項目のボタンをクリックし、プルダウンメニューから設定値を選択すると、Status Viewer に表示されているすべてのレシーバーチャンネルの設定が変更されます。



Other setting ウィンドウ

Other setting ウィンドウでは、Status Viewer に表示される AF レベルメーターのピークレベルのホールド条件の設定、および RF レベルの単位表示の切り替えができます。



AF peak hold setting

Status Viewer に表示される AF レベルメーターのピークレベルのホールド条件を変更します。

2sec : 2 秒間ホールドします。

HOLD : 解除するまでホールドし続けます。

The unit of RF level

RF Chart Grapher タブや Channel Plan Adviser ウィンドウで表示する RF レベルの単位を dBuVemf と dBm から選択します。

ホールド状態の解除について

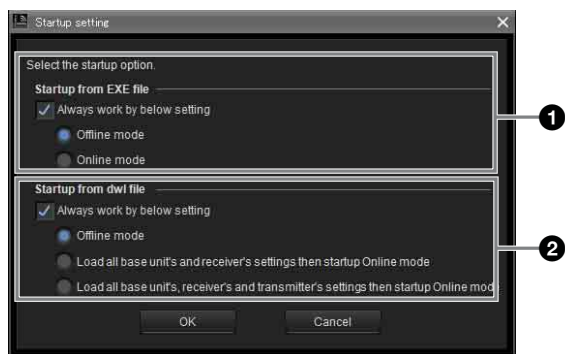
ホールドされているピークレベルは、ワイヤレススタジオのトップ画面から解除できます。



Status Viewer の「Clear AF Peak hold」をクリックすることで、表示されているすべてのレシーバーチャンネルについてピークレベルのホールド状態を解除します。

Startup setting ウィンドウ

Startup setting ウィンドウでは、起動時の動作を設定することができます。



① Startup from EXE file 設定

スタートメニューからワイヤレススタジオを起動した場合の動作を設定します。

「Always work by below setting」にチェックを入れると、常に設定されたモードでワイヤレススタジオが起動します。

Offline mode：オフラインモードでワイヤレススタジオが起動します。

Online mode：オンラインモードでワイヤレススタジオが起動します。

② Startup from dwl file 設定

拡張子が「dwl」または「dwl2」のファイル（設定ファイル）をダブルクリックしてワイヤレススタジオを起動した場合の動作を設定します。

「Always work by below setting」にチェックを入れると、常に設定されたモードでワイヤレススタジオが起動します。

Offline mode：オフラインモードでワイヤレススタジオが起動します。

Load all base unit's and receiver's settings then startup Online mode：設定ファイルの内容をポータブルベースユニットとデジタルワイヤレスレシーバーに反映してから、オンラインモードでワイヤレススタジオが起動します。

Load all base unit's, receiver's and transmitter's settings then startup Online mode：設定ファイルの内容をポータブルベースユニットとデジタルワイヤレスレシーバーとトランスミッターに反映してから、オンラインモードでワイヤレススタジオが起動します。

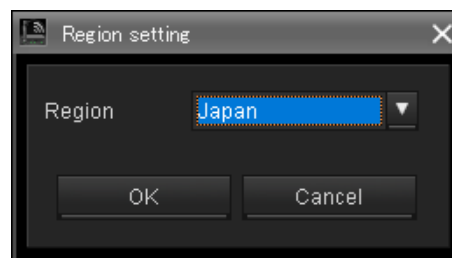
◆ 設定ファイルについて詳しくは、「設定ファイルを活用する」（19 ページ）をご覧ください。

Region setting ウィンドウ

Region setting ウィンドウでは、ワイヤレススタジオをインストールした際に選択した地域を変更できます。

ご注意

- Region setting ウィンドウを開けるのは、ワイヤレススタジオがオフラインモードで動作しているときだけです。
- 地域設定の変更を反映させるには、ワイヤレススタジオを再起動してください。



Region

ワイヤレススタジオを使用する地域を選択します。

Japan：日本で使用する際に選択します。

North America：北米で使用する際に選択します。

Europe：欧州で使用する際に選択します。

チャンネル呼称の表示について

TV ホワイトスペース帯においては、使用する TV チャンネルに隣接する TV チャンネルに放送がある場合は、混信保護基準を満たすために 1 MHz の緩衝用帯域（ガードバンド）が必要です。

本機では、地上デジタルテレビジョン放送（地デジ放送）6 MHz の帯域のうち、上下各 1MHz に該当する周波数のチャンネル名に「*」（アスタリスク）を追加して表示します。

例：476.025 MHz の場合、「14-001*」と表示します。

隣接する TV チャンネルに地デジ放送がある場合は、アスタリスクが表示されるチャンネルを使用しないでください。

ただし、地デジ放送の 13CH の下限から 1 MHz と、53 の上限から 1 MHz については、隣のチャンネルが地デジ放送では使用されないため、チャンネル名の後ろに「*」は表示されません。

チャンネル名の後ろに「*」が表示される周波数帯域は、以下のとおりです。

TV13 の場合：475.025 MHz ～ 476.000 MHz

TV14 の場合：476.025 MHz ～ 476.975 MHz および 481.025 MHz ～ 482.000 MHz

TV52 の場合：704.025 MHz ～ 704.975 MHz、709.025 MHz ～ 710.000 MHz

53 の場合：710.025 MHz ～ 710.975 MHz

TV15 ～ TV51 の場合：TV14 および TV52 と同様に、下限から 1 MHz および上限から 1 MHz の範囲

13CH				14CH				52CH				53			
1 MHz	4 MHz	1 MHz	1 MHz	4 MHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz	4 MHz	1 MHz	1 MHz	4 MHz	1 MHz	1 MHz	1 MHz

■：チャンネル名の後ろにアスタリスクが表示される周波数帯域

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>